

紙幣發行権ヲ民國銀行ニ所屬シ他ノモノ紙幣發行ヲ
禁止スルモノヲ目下市中ニ流通スルモノ極メテ少シ

(革命前ノ流通額百五十萬元ニ達セシマアリト云フ)

政治方面ニテハ過激中ノ省有治績上ラズト稱シ南
京ヲ約九名ノ委員ヲ兼シ一時省有ニ於ケル各局長
部長皆交替アルベシト、訖盛ニナリしが当地方人、他省
人ヲ裁クノ好マサルト從來ノ各吏員ノ位置ヲ失フヲ恐
ル、天抗ノ屬ノニ未ダ決定スルニ到ラズ目下ノ形勢ニテハ更
送ハナカルベシト信ゼラル

馬都督ハ軍事上ニ大ニ力量アレハ民政ニ對シテハ閱歷
甚ダ少ク都督トシテ不適當ナリト、其高ク其更迭
速カラザルベシト云フ

民國軍備(粵)ヲ決江(江)會員由(下)巡警トノ間ニ時ニ小
衝突絶ヘズ過日ハ高ノニ教人ノ員傷者ヲ生シ市中各
文番皆破壊サレタル、小波瀾ヲ生ジタリ然レハ一般ノ民
情ニ先ツ平穩ナリ只官吏ハ皆所謂成金の、木積ニシテ
冠スル連中ナルヲ以テ頗ル禮習ズ之ト云ルニ心セザレバ
時ニ甚ダ不愉快ノ事カカス要之革命以來一般ノ紳
人ハ前比シテ甚ダ生氣ニナリタルハ疑フベカラザル事実ナリ
外國人ニ對シテハ容易ニ革命成功セル自負ト又外兵ノ
容易ニ侵奪ノ事業ヲ承認セザル及動ニヨリテ革命惹起
當時ニ比シテ稍ヤ冷淡候キタルヤノ感アリ

清國事変特報 第三回 三月十四日

廣東派遣員電報 增 十音午後 於廣東

民軍ノ解散 就中廣東ニ戰爭アリ 鎮定 形勢不穩 死傷四
外人無事

特別派遣員報告 三月十日 於南京

近來上海ニ暗潮起リ孫黃等ノ胸中斐々キヲ憤慨シ南京
政府ニ反對セルモノ如シト其主動者ハ譚人整ニシテ譚夫子ト稱シ

唐老人才由

院

漢冶萍借款ノ恭議員ニ反對多キ如ク湖南人湖山人漢陽
以來、軋轢ニ出テ湖北人ハ何事ニ限ラズ黃興ニ反對スルノ風ヲ表シ
商局抵當借款 如キモ陸軍部ヲ始ル故ニ反對スルナリト言明ス
者有リト袁ハ之ニ無シ幼奈ト握手シ湖山人ヲ取り入レ黃ニ反對シメ
黃ノ勢力ヲ殺シ黃ヲシテ手足ヲ出スコト能ハガラシメント欲スルモノ如
ク又孫ハ袁ノ眼中ニテ今ハ只黃ヲ追テ躬シ居ルモノト思ハル
又露債銀行借款ノ打破ノ如キ袁ノ使囑ニ出テ南京政府ニ金ヲ與
フルコトヲ様ニ計畫シ若シタクノ金權ヲ握ルアレバ息ノ其死マラ恐
ルニ出スト

又參議院議員多數袁毒ニ罹リ居ルト非常ナリ

又袁ヲ早ク内閣ヲ組織シ政府ヲ設立セカバ外國上ノ危險アリト

爲シ(滿洲ニ在ル日本ノ意向ヲ畏レ)南京政府ニ迫リタル南京政

府ハ袁ノ就任電報宣批言ヲ承諾シタルナリト云フ

世上ニ於テモ今度ハ唐紹怡ノ南京ニ来リ内閣ヲ組織スル赴ノコトヲ
今日方迄居リ

清國專使特報(甲) 第三十四回 三月十四日

廣東派遣員電報 三月十四日 於廣東

民軍ノ解散ニ就キ廣東ニ戰爭アリ鎮定^(五)形勢不穩死傷四
外人無事

特別派遣員報告 三月十四日 於南京

近來上海ニ暗潮起リ孫、黃等ノ腹中^(五)非ナキマシ懺慨シ南京
政府ニ反對セルモノ如シト其主動者ハ譚人毅ニシテ譚夫子ト稱スル
居ル老人ナリ由

漢治甘洋借款ノ恭議員^(五)ニ反對多キ如ク湖南人湖業人ノ漢陽戰
以來、軋轢ニ出テ湖北人ハ何事ニ限ラズ黃興ニ反對スルノ風ヲ表シ
商局抵當借款^(五)如キモ陸軍部ヲ始メ故ニ反對スルナリ言明ス
者有リト袁ハ之ニ乘ジ^(五)握手シ湖業人ヲ取り入レ黃ニ反對セシメ
黃ノ勢力ヲ殺シ^(五)テ手足ヲ出スコト能ハガラシメント欲スルモノ如
ク又孫ハ袁ノ眼中ニテク^(五)合ハ只黃ヲ追テ居ルモノト思ハル

又露清銀行借款ノ打破ノ如キ袁ノ使囑ニ出テ南京政府ニ金ヲ與
フルコトナキ様ニ計畫シ若シ^(五)クノ金權ヲ握ルアレバ自息ノ世ニ^(五)恐
ルニ出スト

又急議院議員多數袁毒ニ罹リ居ル^(五)非常ナリ
又袁ヲ早ク内閣ヲ組織シ政府ヲ設立セカレハ^(五)外^(五)上ノ危険アリト
爲シ^(五)滿洲ニ在リ日本ノ意向ヲ畏レ南京政府ニ迫リタル^(五)南京政
府ハ袁ノ就任電報宣統ヲ承諾シタルナリト云フ
世上ニ於テモ今度ハ唐紹怡ノ南京ニ来リ内閣ヲ組織ス赴ク^(五)ヲ
今日方迄居リ

明治四十五年 月拾六日 廣東

警政務局 第一課

清國事變持報 第七回 三月十九日

特別派遣員報告 三月一日於廣東

粵漢鐵道借款問題

粵漢鐵道ヲ担保トスル借款ニ付テハ南京政府ノ要求ニ應ジテ
 當会社ハ其内三百萬元ヲ会社ニテ使用スルトシ其使用額條件
 等ヲ電傳セシハ前便ニ報告セシ通りナルガ當廣東政府ハ
 ・粵漢鐵道ヲ抵押トシテ一千萬元ヲ借入レン事ヲ要求シ當會
 社ハ明日株主總會ヲ開キ協議スルガ事ナリ而シテ同会社重役黃氏
 談ニヨリニ中央政府一千萬元廣東政府一千萬元計二千
 萬元ヲ要セラルモトスレバ先日ヨリ開始セル第三回株金拂込
 到底不結果ヲ免レザルベク又會社ハ財產アルヲ以テ他ヲ幾多
 ノ要求ニ遭遇スベキヲ以テ方法ヲ改メ今回会社自ラモ五千萬元
 ノ借款ヲ爲シ工事進捗ヲ促カサン旨ニテコハ勿論自分ノ
 意見ニテモ明白株主總會ニヨラサレバ不確定ナリ云々
 然ルニ上海ノ或勸ヲ粵漢鐵道三四千萬元ノ四國借款成
 立セリトノ報達セル由ナルガ如何ナル條件ナルガ今所知ル由ナリ

廣東城壁取毀ハレノ件

前便ニ申上タル通りニハ使用苦力ハ民軍ヲ使用セルトシ不
 手續出シマアリ四五日前賀國金三氏當地ニ來リ視察シ去
 リ台湾政廳技師ガ臺北城壁取毀シテ基礎トシテ計
 算セシ所ニヨリ約三十五萬元ヲ要スト云フ

武器ノ輸入

廣東政府注文品一萬五千民軍頭領、注文品一萬五千
 ヲ搭載シ宇都宮商店、取扱ニテ宋城丸ヲ當港外虎門
 迄持來リ政府、分ハ四滿ニ定渡濟トナリ民軍、分ナル護
 照ヲ爲シ時政府ニ没收セラレタリ

荷主支那人ニシテ前金を取りたる為ノ損害ナリ
セント會社ノ買収

当地セント會社ノ官辦ニシテ常ニ缺損ヲ先レザリガ今同
紙幣發行ノ準備トシテ提供セラレツクヤリ其原料ノ品質ハ
我國ノ産品ヲ教等上等ナリトス

特別派遣員報告 二月廿三日 於漢口

武昌財政ノ窮乏 事件發生當時藩庫官錢局及び
地方州縣衙門ヲ運ミ来リテ武昌城内ニ藏セル現銀紙幣
銅錢銅塊等ヲ合シテ約五百萬兩ヲ有スル成ル可ク硬貨
ヲ保存スルノ主義ヲ以テ普通ノ支出ハ皆紙幣ヲ用ヒシガ外
國ノ軍需購入等ハハバケテ得ズ硬貨ヲ用ヒケルヲ得
ガリキ事件發生ス今日迄ノ支出統計約一千萬兩ニシテ
都統府庫現銀紙幣存セルモノ今僅ニ五十萬兩ニ過キ
今後ノ財政ノ果シテ如何ニスヤキカ之ノ頗ル苦慮ニ堪ヘ
ザルナリ現今財政ノ此窮極ニ達セリ若シ比俟ニシテ過
ギ行カバ湖北ハ遂ニ破産スルハムヲ得ザルニ至ルヤシ彼等
モ亦茲ニ觀ル處アリテ財政整理ニ着手シ類ニ新稅ヲ
課スルノ方針ヲ取リ各種ノ課稅等ヲ取リ始メタリ
日熱増加 近頃漢冶萍煤鐵廠借款問題ニ對
湖北ニテハ絶對ニ之ニ反對セリ其ハ利權ヲ外國ニ奪ハル
トスル理由外ニ彼等ノ最も喜バサルハ南京政府ニ卷百
萬兩ヲ取ラタリテ湖北ハ昔々天下ニ三大財源地ノ一ト稱セリ而シテ
革命後發達地モ亦湖北ニテリ彼等湖北人ノ之ヲ以テ天下ニ誇リトナ
ス然レニ我日本人ハ湖北ヲ輿視シ借款契約ヲ割リ湖北財源ヲ
担保トシテ大冶及鐵製局ト何等ノ關係モ南京ニ卷百萬兩ヲ
取ラタリ湖北人ノ時常ノ憤慨セルモノ而シテ之ハ恰モ湖北財政窮
乏時際シタリハ彼等ノ忿恨ヲ引イテ日本人ノ及ボシ對日人感情
ハ益々惡化シタリ

清國事変持報 第七八回 三月十五日

特別派遣員報告 三月一日於廣東

粵漢鐵道借款問題

粵漢鐵道ヲ担保トスル借款ニ付テハ南京政府ノ要求ニ應ジテ
当会社ハ其内三百萬元ヲ会社ニテ使用スルトシ其使用額條件
等ヲ電質セシハ前候ニ報告セシ通りナルガ当廣東政府ハ更
・粵漢鐵道ノ抵押トシテ一千萬元ヲ借入レン事ヲ要求シ当會
社ハ明日株主總會ヲ開キ協議スル旨ナリ而シテ同会社重役黃氏
談ニヨルニ中央政府ノ一千萬元廣東政府ノ一千萬元計五千
萬元ヲ要セルモトスレバ先日ヨリ開始セル第三回株金拂込ハ
到底不結果ヲ免レザルベク又會社ハ財産アルヲ以テ他ヨリ幾多
ノ要求ニ遭遇スベキヲ以テ方法ヲ改メ今回会社自ラモ五千萬元
ノ借款ヲ爲シ工事ヲ進捗ヲ促カサン旨ニテコハ勿論自分ノ
意見ニテモ明白ノ株主總會ニヨラサレバ不確定ナリ云々
然ルニ上海ノ或筋ヨリ粵漢鐵道ニ四千萬元ノ四國借款成
立ヤリトノ報達セル由ナルガ如何ナル條件ナルガ今所知ル由ニ

廣東城壁取毀ハレノ件

前候ニ申上タル通りニハ使用苦力ハ民軍ヲ使用セルトシ不
平續出シテアリ四五日前賀田金三郎氏当地ニ來リ視察シ去
リ台湾政廳ノ技師ガ臺北城壁取毀シテ基礎トシテ計
算セシ所ニヨリハ約三十五萬元ヲ要スト云フ

武器ノ輸入

廣東政府注文品一萬五千民軍頭領ノ注文品一萬五千
ヲ搭載シ宇都宮商店ノ取扱ニテ京城丸ニテ香港外虎門
迄持來リ政府ノ介ハ田滿ニ支渡濟トナリ民軍ノ分ナル護
照ナキ爲メ時政府ニ没收セラレタリ

2

荷主の支那人にシテ前金を取リたる為ノ損害ナリ

セント會社、買収

当地セント會社の官辦ニシテ常ニ缺損ヲ免レザリしが今回紙幣發行ノ準備トシテ提供セラレツアリ其原料、品質ハ我國ノ産品ヲ用テ上等ナリト云フ

特別派遣員報告 二月廿三日 於漢口

武昌財政の窮乏 事件發生當時藩庫、官錢局及び地方州縣衙門より運ビ来リテ武昌城内ニ藏セル現銀紙幣銅券、銅塊等ヲ合シテ約五百萬兩ナリ有ク成ル可ク硬貨ヲ保存スルノ主義ヲ以テ普通ノ支出ニハ皆紙幣ヲ用ヒしが外國より軍需ノ購入等ニハハタテ得ズ硬貨ヲ用ヒザル得ザリキ事件發生スル今日迄ノ支出統計約一千萬兩ニシテ都統府庫現銀紙存セルモノ今僅ニ五十萬兩ニ過ギキ今後ノ財政ハ果シテ如何ニスルキカ之ノ頗ル苦慮ニ堪ヘサル処ナリ現今財政ハ窮乏極ニ達セリ若シ比俟ニシテ過ギ行カバ湖北ニ遂ニ破産スルハハタテ得ザルニ至ルヤし彼等モ亦茲ニ觀ル處アリテ財政整理ニ着手シ類ニ新稅ヲ課スルノ方針ヲ取リ各種ノ課稅等ヲ取リ始メタリ

排日熱增加 近頃漢口サ洋煤鐵廠借款問題ニ對シ湖北ニテハ絶對ニ之ニ反對スル其ハ利權ヲ外國ニ奪ハルハト云フ理由外ニ彼等ノ最も喜バザルハ南京政府ニ卷百萬兩ヲ取ラタレニテリ湖北ハ昔々天下ニ三大財源地ト稱セシ而シテ革命救済地モ亦湖北ニテリ彼等湖北人ノ之ヲ以テ天下ニ誇リトナセリ然レニ我日本人ハ湖北ヲ輕視シ借款契約ヲ訂シ割リ湖北財源ヲ担保トシテカウ大治及鐵製局ト何等ノ關係ナキ南京ニ卷百萬兩ヲ取ラタレバ湖北人ノ排日熱ニ憤慨セルナリ而シテ之ヲ恰モ湖北財政窮乏時際シタレバ彼等ノ危險ヲ引イテ日本人ニ及ボシ對日人感情ハ益々重キシタリ

清國事変持報

第七八回 三月十九日

特別派遣員報告 三月一日於廣東

粵漢鐵道借款問題

粵漢鐵道ヲ担保トスル借款ニ付テハ南京政府ノ要求ニ應ジテ
 當会社ハ其内三百萬元ヲ會社ニテ使用スルトシ其使用額條件
 等ヲ電傳セシハ前使ニ報告セシ通リナルガ當廣東政府ハ
 ・粵漢鐵道ノ抵押トシテ一千萬元ヲ借入レン事ヲ要求シ當今
 社ハ明日株主總會ヲ開キ協議スルガ事ナリ而シテ同會社重役黃公
 談ニヨルニ中央政府ノ一千萬元廣東政府ノ一千萬元計二千
 萬元ヲ要セラルモトスレバ先日ヨリ開始セル第三回株金拂込
 到底不結果ヲ免レザルベク又會社ハ財産アルヲ以テ他ヨリ幾多
 ノ要求ニ遭遇スベキヲ以テ方法ヲ改メ今回會社自ラモ五千萬元
 ノ借款ヲ爲シ工事進捗ヲ促カサンガ苦ニテコハ勿論自分ノ
 意見ニテモ明白ノ株主總會ニヨラサレバ不確定ナリ云々
 然ルニ上海ノ或筋ヨリ粵漢鐵道二千萬元ノ四國借款成
 立セリトノ報達セル由ナルガ如何ナル條件ナルガ今所知ル由ニ

廣東城壁取毀ハレノ件

前使ニ申上タル通リニハ使用苦力ハ民軍ヲ使用セルトシ不
 平續出シマアリ四五日前賀田金三郎氏當地ニ來リ視察シ去
 リ台湾政廳ノ技師ガ臺北城壁取毀シテ基礎トシテ計
 算セシ所ニヨリ約三十五萬元ヲ要スト云フ

武器ノ輸入

廣東政府注文品一万五千民軍頭領ノ注文品一万五千
 ヲ搭載シ宇都宮商店取扱ニテ梁城丸ニテ當港外虎門
 迄持來リ政府ノ分ハ田滿ニ渡渡濟トナリ民軍ノ分ハ護
 照ナキ爲メ時政府ニ没收セラレタリ

荷主の支那人にテ所金ヲ取リ之を爲ノ損害ナリ
セント會社の買収

当地セント會社の官辦ニテ幣ニ兌換チ免レザリガ今回
紙幣發行ノ準備トシテ提供セラシツアリ其原料ノ品質ハ
我國ノ産品ヲ教等上等ナリトス

特別派遣員報告 二月廿三日 於漢口

武昌財政ノ窮乏 事件發生ノ當時藩庫官錢局及び
地方州縣衙門ヲ運ビ来リテ武昌城内ニ藏テ現銀紙幣
銅錢銅塊等ヲ合シテ約五百萬兩ナリ成ル可ク硬貨
ヲ保存スル主義ヲ以テ普通ノ支出ニハ皆紙幣ヲ用ヒシガ外
國幣ノ軍需ノ購入等ニハ巴チ得ズ硬貨ヲ用ヒザル得
ザリキ事件發生ヨリ今日迄ノ支出統計約一千萬兩ニシテ
都統府庫ノ現銀紙幣存セシモノ今僅ニ五十萬兩ニ過キ
今後ノ財政ノ果シテ如何ニスヤキガ之ノ頗ル苦慮ニ堪ヘ
ザル処ナリ現今財政ノ窮乏極ニ達セリ苦シ比僕ニシテ過
ギ行カバ湖北ノ遂ニ破産スルニ巴チ得ザルニ至ルヤし彼等
モ亦茲ニ觀ル處アリテ財政整理ニ着手シ類ニ新稅ヲ
課スルノ方針ヲ取リ各種ノ課稅等ヲ取リ始メタリ
日熱增加 近頃漢冶萍煤鐵廠借款問題ニ對
湖北ニテハ絶對ニ之ニ反對セリ其ハ利權ヲ外國ニ奪ハル
トス理申外ニ彼等ノ最も喜バザルハ南京政府ニ卷百
萬兩ヲ取ラシメテ湖北ノ昔々天下ニ大財源地ト稱セシモノ
革命後發地モ亦湖北ニテリ彼等湖北人ノ之ヲ以テ天下ニ誇
リトナシ我日本人湖北ヲ與視シテ借款契約ヲナシ刺リ湖北財政ヲ
担保トシテガラ大治及鐵製局ト何等關係ナキ南京ニ卷百萬兩ヲ
取ラシメ湖北人ノ非常ニ憤激セル處ナリ而シテ之ヲ恰モ湖北財政窮
乏時際シタル後果ノ念限ハ引キテ日本人ニ及ボシ對日人感情
ハ益々重シクシタリ

清國事變時報 第九回 三月十日

特別派遣員報告 三月十日 於福州

福建財政狀態 義捐金 強制公債 發行

福建政府財政が極窮極乏に在り、勿論、これは政變當時旧政府の官金として存在せし、八拾餘萬元あり、其外、旧政府が民間に融通したる力も、商務總會及錢庄に貸出せしもの、四拾萬元あり、八事實、實に政變當時費用に變後、政費重勝、給用に向等、決滞あり、又辨せんが如し。

政變後海關收入の総て外人の手に保管せし、一毫トも使用せし得ず、錢糧地丁銀、人民自り、其義務を盡さる過度時代、政府の人民に信用を得んが爲、稅的金錢、總て未納の狀態に在り、持、新政府の第一着手として早計ニも厘金制度を廢止（近來復活説あり）せんが爲、收入の途殆ど絶つ、財政の窮乏、當然免れがらん状態ニ至り、此當福州の政變後、幸、南洋出稼の富豪より革命後助、義捐、四拾萬元を得ん、以て新兵、招募、北伐隊、編成、及出征官吏、俸給、滿洲人、救助等、毫も故障ナク、今日に至り、是れ福州革命党が比較的善良な成績を挙げ、所以、持、旧政府が民間に貸付たる四拾萬元、其終、撥置として商務總會及信用元紳商に訓令して政府監督下ニ福建銀券、發行、紳商、融通機關、開始せし、四拾萬元、基本として商業上、融通の援、一面、各錢庄、發行せる番票（紙幣）、聲價を維持し、商業上、多大の便益を與へ、變後、財界ラシテ、本末、亂、至らし、今日、至テ、安全を保つ、ハ、新政府の施設、頗る宜きを得ん、モノ、ニシテ、大ニ、賞讃、値、ヒ、ス。

雖然以上只時的現像ニシテ福建、財政ハ極テ薄弱ニシテ
何等確實ナル財源ヲ有セザルヲ以テ今後、成行ハ憂慮應ルルモノナリ
今尙當局者ガ甚ク堪堪後遂ニ一面ニ富地、紳商富豪ヲ論シ
強制的ニ其財産ノ割乃至ニ割ヲ献納セシムル案ヲ立テ之ヲ
實行シタル結果ハ拾餘萬元ヲ彙集シ得タリト云フモ是又一時
ヲ彌縫スルニ窮策ニシテ目前一二ヶ月ヲ又ツルニ過キヌ又一面
ニ愛國公債ヲ發行スルノ計畫ヲ建テ別紙、如キ章程ヲ撰
定シ迄々之ヲ発表シテ將ニ實行ニ着手セントス然レテ
五百萬元ト定メ無記名式トシテ外國人トモモ購買所所有
スル事ヲ許サリ(義演金、獻納者ハ此愛國公債ヲ買付テ可キ)是
確ニ財政救済ノ政策トシテ良好ナル法方トシテ福建
政府ノ信用ハ果シテ五百萬元ヲ放シテ此公債ヲ購入スルノ
價值ヲ得スルヤ何人ト果モ首肯スル能ハザルヤ(第一
年)起リ第五年ニ至リテ止ル四ヶ年間ニ於テ抽籤法ニ
依テ償還スルノ規定トシテ福建政府今日ノ状態ハ果シテ
確實ニ償還ノ責任ヲ盡シ得ル信用ヲ有スルヤ(吾人ハ
頗ル危殆タルヲ覺メ政府ノ信用ハ已ニ薄弱ニシテ吾人ヲ
シテ不安ノ念ヲ抱カシメタル公債ハ到底満足ニ應答
スル能ハズ全然不良ナル結果ニ終ル事明白ナル條理ナリ
是ニ於テハ福建、財政ハ今後益々困難ニ落テ入り
遂ニ鐵道鑛山及ビ塩業ヲ担保ニ提供シ外債ヲ起
ス、外資策ヲ講ルルハ是近時米國人ガ野心滿ク此
ノ點ニ注目ヲ怠ラザル所以ニシテ借款問題ノ起ル
蓋シ偶然ニ非ラズト信ズ

清國事變時報 第九回 三月十六日

特別派遣員報告 三月五日 於福州

福建財政狀態義損金強制公債發行

福建政府財政が極窮極乏に在り、勿論之は政變當時旧政府の官金として存在セルモノ八拾餘萬元あり、其外旧政府が民間の融通を助クルカ爲ニ商務總會及錢庄ニ貸與シタルモノ四拾萬元あり、又丁ハ事實ニシテ政變當時費用ト變後、政費軍隊ノ給用ニ何等波滯アリ又辨シタルが如シ

政變後海關收入ハ総テ外人ノ手ニ保管セラレテ一毫トモモ使用スルヲ得ズ、錢糧地下銀ハ人民自カニ其義務ヲ尽サス過度時代、政府ハ人民ノ信用ヲ得ルガ爲ニ稅的金錢系統ヲ未納ノ狀態ニ在リ、持ニ新政府ハ第一着手トシテ早計ニモ厘金制度ヲ廢止(近來復活説アリ)シタルが爲ニ收入ノ途殆ド絶テ、財政ハ窮乏ハ當然免カザル狀態ニ至リ、當福州ハ政變後幸ニ南洋出稼ノ富豪ヲ革命援助ノ義捐トシテ四拾萬元ヲ得タルヲ以テ新兵ノ招募北伐隊ノ編成及出征官吏ノ俸給福州人ノ救助等實モ故障ナク今日ニテ又ハ得タル是ハ福州革命党カ比較的善良ナル成績ヲ奉ル所以ナリ、持ニ旧政府が民間ニ貸付タル四拾萬元ハ其終極措置トシテ商務總會及信用ニ紳商ニ訓令シテ政府監督下ニ福建銀辨トシタル金融通機關ヲ開始セシメ四拾萬元ヲ基本トシテ商業上ノ融通ヲ援ケ一面ニ各錢庄ノ発行スル番票(紙幣)ノ聲價ヲ維持シ商業上ノ多大ノ便益ヲ與ヘ、變後ハ財界ヲシテ紊亂ニ墮ラシメズ今日ニテ安全ヲ保チタルハ新政府ノ施設頗ル宜キヲ得タルモノニシテ大ニ賞讃ニ値ヒス

雖然以上只一時的現象ニシテ福建ノ財政ハ極テ薄弱ニシテ
何等健實ナル財源ヲ有セザルヲ以テ今後成行ノ憂慮勝ルルモ亦
今尚當局者ガ甚ク堪擔後遂ニ面ニ富地紳商富豪ヲ論シ
強制的ニ其財產ノ割乃至ニ割ヲ獻納セシムル案ヲ立テ之ヲ
實行スル結果六拾餘萬元ヲ彙集シ得タリト云フモ是又時
ヲ彌縫スルノ窮策ニシテ目前一二ヶ月ヲ又ツルニ過キス又一面
ニ愛國公債ヲ發行スルノ計畫ヲ建テ別紙ノ如キ章程ヲ撰
定シ近々之ヲ發表シテ將ニ實行ニ着手セシムル統額ヲ
五百萬元ト定メ與記名式トシテ外國人トモ購置所所有
スル事ヲ許サシ義債金獻納者ハ此愛國公債ヲ交付スル
是確ニ財政救済ノ一政策トシテ良好な法方ナリ福建
政府ノ信用ハ果シテ五百萬元ヲ放シテ此公債ヲ購入スル
價值ヲ得スヤ何人ト果モ首肯スル能ハルヤ第ニ
年ヲ起リ第五年ニ至リテ止ム四々年間於テ油藏法ニ
依テ償還スルノ規定ナレバ福建政府今日ノ狀態ハ果テ
確實ニ償還ノ責任ヲ盡シ得ル信用ヲ有スヤ一五口人ハ
頗ル危殆ナリテ實ニ政府ノ信用ハ已ニ薄弱ニシテ吾人
レテ不安ノ念ヲ抱カシメタル公債ハ到底満足ニ應答
スル能ハス全然不良ナル結果ニ終ル事明白ナル條理ナリ
是ニ於テハ福建ノ財政ハ今後益々困難ニ落タ入り
速ニ鐵道鑛山及ビ塩業ヲ担保ニ提供シ外債ヲ起
スノ外良策ナカレバ是近時米國人ガ野心滿ク此
ノ點ニ注目ヲ怠ラザル所以ニシテ借款問題ノ起ル
蓋シ偶然ニ非ラスト信ス

在上海高木陸郎氏發 三月十五日午前九時三十分着

Please Communicate the following Telegram

中村長官小田切氏

合同經營反對、風潮ハ意外ニ峻烈ニシテ手ヲ下スヘキ餘
地ナシ神戸ニ於ケル合同契約ハ株主會議ノ結果ニ待ツト
ナリ居ル故差支ナケレドモ借款契約一度發表サレ鑛山鐵廠
代理經營主ニ興國川武品縣鑛山振當ノ事漏ルルハ契約締
結當事者トシ李維格ノ危言立脚ニ至リ危急殆ト迫ル
事ニ借款二百五十万ハ合同契約ニ附隨シテ行ハルル如ク考
エテ居ル故説明ノ際ニ三井ノ契約ニ記セル如ク合辦
契約ニ附隨セルモノトシ若シ合同不成立ノ際償還方法ハ大
冶鑛石毎年度二十万噸ワ、リ三十一年供給シ其代價ヲ
以テ償還ニ充テ大冶鑛石以外ノ諸所所有鑛石ニ關シテハ

日本ガ優先權ヲ有シ償還後ト雖モ鑛石供給契約ハ
依然効力アルモノトシテ説明發表シテ故ニ日本ハ此風潮ニ
ハ遠絶對ニ借款契約ヲ發表スルコトナリ 且借款條項ノ履
行ヲ進ムコトナク單ニ昨年ノ鐵鐵賣買契約ニヨリ鐵鐵
ノ供給ヲ迫ル様セラレタク何分脚配慮願ヲ。李維格今
日ノ舉ハ兩國ノ公益ヲ計ルニ急ニテ其間一兵、私心ヲキ諸
君ノ諒トセリ、同氏ノ危急ニ際シ切ニ諸君ノ雅量ニ
テ答ラシムコトヲモテ株主總會ハ四曆末月四日ニシテ新
曆三月廿二日ナリ日本ノ急務如何至急電返。高木

清口事要特報 第三回 三月十八日 於南京
特別派遣員報告 三月十日

譚人鳳主動者タル新革命派ハ大分資金ハ模様ニ先日日本へ
向テ兵器買入シノ爲メ出張シタル由ナリ此派ハ先ヅ山東方面ニ
向テ事ヲ遂行シタル模様アリト云フ

唐紹怡總理トシテ不日南京ニ来リ事勢引継ヲ了リ北京ニ
歸ルハ三週ノ内ナルベシトノ觀察且又南京政府ノ内閣員ハ大概
袁ノ内閣ニ列セバシテ軌ヲ表ノ政治ヲ觀望シ居ル模様ナリト
云フ

蔡元培ヲ恭議院ノ北京ニ移駐シ際ハ天津迄ハ南京ノ兵ヲ
護衛ニ充テ天津ニ北京兵ト交代ノ事ニ申来リタモ 既ニ今
日ハ皆袁ノ指揮ニ據ルベシトノ議アリ且陸軍部ノ意見モ
同様ナリト云フ

中國同盟會、外ニ共和統一會トテ出スル此ノ派ハ嘗分總理ヲ
置カズトノ事又如何ナルモノ、主動ナルヤ否明クレドモ或ハ同盟
會ニ對抗シ後來袁ヲ援助スルノ黨派タルモノニアラスヤト察
セラルト云フ

参照

中國同盟會統章 第一章 宗旨 全部 三十四條

第二章 總則

- 第一條 本會ハ中國同盟會ト定名ス
- 第二條 本會ハ中華民國ヲ鞏固シ
- 第三條 民主主義ヲ實行スルヲ以テ宗旨ト爲ス
- 第四條 本會ノ政綱分列ハ下ノ如シ
- 一 行政ノ路ヲ克成シ地方自治ヲ促進ス
- 二 種族ノ同化ヲ實行ス

三 國家ノ社会政策ヲ策定シ行ハス
 四 義務教育ヲ普及ス
 五 男女ノ手権ヲ主張ス
 六 徴兵制度ヲ勵行ス
 七 財政ヲ整理シ税制ヲ釐定ス
 八 カキ國際平等ヲ謀ル
 九 軍ヲ移民墾殖事業ニ注グ
 第四條 本令ハ駐日公使ヲ南京ニ設ケ支部ヲ各要地ニ設ケ
 (他章畧ス)

清口事変特報(甲)第三十回 三月十八日 於南京
 特別派遣員報告 三月十日

譚人鳳主動者タル新革命派ハ大分資金ヲ模様ニ先日日本へ
 向テ兵器買入シノ爲メ出張シタル由ナリ此派ハ先ヅ山東方面ニ
 向テ事ヲ遂行シルモ模様アリト云フ

唐紹怡總理トシテ不日南京ニ来リ事勢ヲ引継ガリ北京ニ
 歸ルハ三週ノ内ナルモト、觀察且又南京政府ノ内閣員ハ大概
 袁ノ内閣ニ列セズシテ軌範袁ノ政治ヲ觀望シ居ル模様ナリト
 云フ

蔡元培ヲ參議院、北京ニ移駐シ天津迄ハ南京ノ兵ヲ
 護衛ニ充テ天津ニ北京兵ヲ交代シ事ニ中ナリモ既ニ今
 日ハ皆袁ノ指揮ニ據ルハレトノ議アリ且ツ陸軍部ノ意見
 同様ナリト云フ

中国同盟会ノ外ニ共和統一會ナル者出見此ノ派ハ嘗分總理ヲ
 置キズトノ事又如何ナルモノ、主動ナルヤ不明ナレドモ或ハ同盟
 會ニ対抗シ後來袁ヲ援助スルノ黨派タルモノニアズヤト察
 セラレト云フ

参照

中国同盟会統章 第一章第七條全部 三四條

第一章 總則

- 第一條 本會ハ中国同盟会ト定名ス
- 第二條 本會ハ中華民國ヲ鞏固シテ
 民主主義ヲ實行スルヲ宗旨ト爲ス
- 第三條 本會ノ政綱分列ハ下ノ如シ
 一 行政ノ統一ヲ完成シ地方自治ヲ促進ス
 二 種族ノ同化ヲ實行ス

三 國家、社會政策ヲ實行ス
 四 義務教育ヲ普及ス
 五 男女ノ手権ヲ主張ス
 六 徴兵制度ヲ勵行ス
 七 財政ヲ整理シ、稅制ヲ釐定ス
 八 カメテ國際平等ヲ謀ル
 九 重キヲ移民殖産事業ニ注リ
 本會ハ、執事ノ本部ヲ南京ニ設ケ、支部ヲ各要地ニ設ケ
 (他章畧ス)

臨時杭州派遣員一般的報告

三月十日

三月十九日 於杭州

杭州都督蔣尊簋六地方に於て相應ノ人望ヲ有シ居リ同地人民モ政府ニ對シ惡評ヲナスコト先ニ旅行セル江蘇各地比スルハ稍小康ヲ得ルモノナリ然レモ得ン然レモ法シテ全然テ政府ニ誣歌セシムル非カレナリ

租稅

從來海關ニテ舊關ニ代リテ便宜徵收光清國內地行キ小包郵物ハ價格拾兩以上ノモノニ對シ從價二分五厘ヲ徵收セシガテ稅

ニ對シハ革命軍政府ヨリ免稅セリトノ通知無キヲ以テ依然徵收ヲ繼續シ人カ車ニ對シハ新曆一月ヲ城外商場工務處ニ於テ一月一

元ツクヲ徵收セリ

田租ハ新曆二月ヨリ從來七割ニ照シテ細稅セヨト命セシモ人民ノ之ヲ聽遵

シテ納入ルモノナシ

釐金稅ハ一般貨物ニ對シハ未ダ徵收ヲ開始セズ唯絹物、絹物外ノ各種

織物、酒類、塩、茶、煙草、砂糖ニ對シハ從來同率ヲ二月ヨリ徵收

開始セリ此七種徵稅ニ關シテ外間ノ訛評ニ曰ク塩稅ハ頗ル惡稅ナリ

塩ハ人民ノ常食ノモノク可カラルモノニシテ之ニ課稅ヲ爲スハ徒ラニ

細民ニ苦痛ヲ與フル結果ヲ爲ス清政府ノ苛稅ト異ル無ト稱スモナリ

軍人 當地ニ在ル軍人ハ重ニ新募ノ兵ニ係ル從來當地ニ在リシ軍人ハ

曩者南京政變時軍ニ參加シ次ニ北伐軍ニ從ヒテ而シテ此舊軍人ハ

勳中頗ル首肯スルヲ得サルモノアリ此等軍人ハ三五軍ヲ成シテは只僕ヲ

強要シ與ハカレハ軍奉行ヲ敢テシテ爲ニ償贖モ已ムヲ得ズ之ニ允從セリ

然レモ此ノ如キ到處底償贖ノ永ク忍テマキアラズ遂ニテ政府ニ原

中モモ政府ハ一片之ヲ取締リノ命令ヲ奉セリトアリモ今ニ克ク取

締實行ヲ見ズルナリ

蘇

扶宸橋附近藝娼妓緣業者擲比シ哈ニ蘇州關門外ニ彷彿シ

然レモ彼等ハ軍人ノ暴行ヲ恐レテ(從來再三暴行アリシト云)彼等ノ

常用金招牌ヲ撤去シ軍人等未トス既ニ廢業アリト稱シ層所謂者
筋ヲ見テ營業ヲナシツアルナリ

金融不濟業 當地ノ金融モ亦其融通本據ヲ上海ト爲ス而シテ
上海既ニ其逼迫頂点ニ達シテ到底他所ノ幫助スルヲ餘カナレ而カモ商
業ハ疲弊シ金廻リニ悪ク自家人ノシラズ世間一般ノ情況ニシテ
甲モ乙モ同情況ニアルヲ以テ此ノ如ク際ニ於テ強ヒテ債務ノ履行ヲ求ム
ル如キハ反テ情理ニ及ズルモノトナシ各同一理由ヲ述バテ何等ヲ支拂ヲモ
爲ズ其儘ニ歳末ヲ經過セリ

浙江省銀行ニ係ル軍用鈔票ハ何等ノ故障無ク市面ヲ流通スルモ右
支拂ハ之ヲ拒絶スルヲ而シテ現金ニ兌換セバ一元ニ付キ一錢乃至五
厘ノ打歩ヲ支拂ハカレバカニバ目下市場極メテ蕭條ノ際薄利ノ營業
者公前記ノ如ク打歩ヲ支拂セシ其買出地タル上海ニ向テ滙送セカレ
バカラナルハ少カラサル其苦痛アリト云フ

這次ノ旅行ハ晴旭モ陰曆歲末ニ當リルト滞在日數僅少ナリトモ
際々民意ヲ燃カスルヲ得ガリキ然レモ帰路汽車中ニ於テ目撃
セリトコロニトバ滿都督ノ名ニ於テ近者軍人ノ無切符乗車ヲナシ又
ハ切符等ヲ超シテ乗車ヲ爲スアリト聞ク由來軍人ノ尚フバキ
ハ人格ノ崇高ナルニアリ此ノ如ク極メテ恥ツキニ屬ス以後一律前記ノ
弊風ヲ嚴禁ス若シ尚干犯スルモノアルトキハ重ニ從テ嚴究シテ貸
カト告出セル一等車二等車モ無切符軍人連ノ確實ナル古領ニ
歸レ乗客ハ空席ヲ得ナル程ナリ而モ傍ニル將校モ亦之ヲ面責叱咤
セリトナレ怪ム勿レ此ノ將校モ亦無切符黨スルヲ嗚呼斯ノ如ク弊風
軍界ニ蔓延ス此種軍人ハ所謂私闘ニ勇ナルモノ遂ニ公戰ニ怯ナ
ルノ結果ヲ示サルカ人民ニシテ沈思熟考セバ頗ル抱歎シテカレラ
得ガリシ然レモ江浙各地ニ比シ比較的怨嗟ノ聲少ナキハ要ス
ルニ大總統衙門所在地ニアラザルニテ徵稅其他萬事ノ手心
比較的緩慢ナルモノアルニ職由セシハアラス

臨時杭州派遣員一般的報告

三月十九日

於杭州

杭州都督蔣尊簋ハ地方ニ於テ相應ノ人等ナシ居リ向地人民モ政府ニ
對シ惡評ヲナスヲ少ク先ニ旅行セル江蘇各地ニ比スバ縮小廉ヲ得ルモノ
ナリ納税ヲ得シ然レバ法シテ全然ヲ政府ニ詎歌セシムル非カレナリ
租税 從來海關ニテ舊關ニ依リテ便宜徴收光清國內地行キ小
包郵船物ハ價格拾兩以上ノモノニ對シ從價二分五厘ヲ徴收セガクノ稅
ニ對シテハ革命軍政府ヨリ免稅セリトノ通知無キヲ以テ依然徴收ヲ
繼續セリ 人力車ニ對シテハ新曆一月一 城外高場工務處ニ於テ一月一
元ツツヲ徴收セリ

田租ハ新曆二月ヨリ從來七割ニ照シテ納稅セヨト命セシモ人民ノ乏ヲ聽遵
シテ納入ルモノナシ

釐金稅ハ一般貨物ニ對シテ未ダ徴收ヲ開始セズ唯絹物、絹物外ノ各種
織物、酒類、塩、茶、煙草、砂糖ニ對シテ從來同率ヲ二月ヨリ徴收
開始セリ此七種徴稅ニ關シテ外間ノ訛評ニ因テ塩稅ハ頗ル惡稅ナリ
塩ハ人民ノ常食ノモノ欠ク可カラルモノニシテ之ニ課稅ヲ爲スハ徒ラニ
細民ニ苦痛ヲ與フル結果ヲ示ス清政府ノ苛稅ト異ル無ト稱スモアリ

軍人 當地ニ在リ軍人ハ重ニ新募ノ兵ニ係ル從來當地ニ在リ軍人ハ
曷暮南京攻戰時軍ニ參加シ次ニ北伐軍ニ從ヒテ而シテ此等軍人行
動中頗ル首肯スルヲ得サルモノアリ此等軍人ハ三五軍ヲ成シテ賃價ヲ
強要シ與ヘカレハ暴行ヲ敢テシ爲ニ賃價モ已ムラ得ズ之ニ允從セリ

然レモ此ノ如キハ到底賃價ノ永ク忍ブアラス遂ニ之ヲ政府ニ原
申シモ政府ハ片之ヲ取締リ命令ヲ發セリト云フモ今ニ充分ヲ取
締行ハ行見ヤト云フ

蘇 杭震橋附近藝娼妓線業者將比シ恰モ蘇州閶門外ニ彷彿ス
然レモ彼等ハ軍人ノ暴行ヲ恐レテ一從來再三暴行アリト云フ彼等ハ

常用金招牌の撤去し軍人等未だ既ニ廢業セリト稱し居り所謂客筋ヲ見テ營業ヲナシアルナリ

金融の尙素 當地ノ金融モ亦其融通本據ヲ上海ト爲ス而シテ上海ハ既ニ其逼迫頂点ニ達シテ到底他所ノ援助スルタ餘カナレ而シテ商業ハ疲弊シ金廻リ悪ク密ニ自家ノミナラズ世間一般ノ情況ニシテ甲モ乙モ同一情況ニアル以テ此ノ如ク際ニ於テ強ヒテ債務ノ履履行ヲ欲ムル如キハ反テ情理ニ及ムルモノトナシ各同一理由ヲ以テ何等ヲ支拂ヲモ爲ス其儘ニ歳末ヲ經過セリ

浙江省發行ニ係ル軍用鈔票ハ何等故障無ク市面ヲ流通スルモ右支拂ハ之ヲ拒絶スルコトヲ而シテ現金ニ兌換セバ一元ニ付キ銀乃至五厘ノ打歩ヲ支拂ハハカレバカラス目下市場極ク蕭條除薄利ノ營業者ハ前記ノ如ク打歩ヲ支拂之ヲ其買出地タル上海ニ向テ滙送セラルベカラサルハ少カラザル其痛ナリト云フ

這次ノ旅行ハ時恰モ陰曆歳末ニ當リセルト滞在日數ノ僅少ナリトシテ深ク民意ヲ察スルコトヲ得カリキ然レモ帰路汽車中ニ於テ目撃セルトニコニコバ蔣都督ノ名ニ於テ近者軍人ノ無切符乗車ヲナシ又ハ切符等次ヲ超シテ乗車ヲ爲スチアリト聞ク由未軍人ノ尚フバハ人格ノ崇高ナルニアリ此ノ如ク極メテ恥ツキニ屬ス以後一律前記ノ弊風ヲ嚴禁ス若シ尚干犯スルモノアルトキハ重ニ從テ嚴究シテ貸カスト告云セル一等車二等車モ無切符軍人連ノ確實ナル台領ニ歸レ乗客ハ空席ヲ得サル程ナリ而シテ傍ニテ將校モ亦之ヲ面責叱咤セシメテ怪ム勿レ此ノ將校モ亦無切符當流ク嗚呼斯ノ如ク弊風軍界ニ蔓延ス此種軍人ノ所謂私闘ニ勇ナルモノ遂ニ公戦ニ結ナルノ結果ヲ示サルカ人民ニシテ沈思熟考セバ頗ル抱歎シテ得カラン然レモ江蘇各地ニ比シ比較的怨嗟ノ聲少チハ要スルニ大總統衙門所在地ニアラザルニテ徴稅其他萬事ノ手心比較的緩慢ナルモノアルニ職由セシムハアラス

明治四十五年 癸卯貳拾日 變

警政務局

第一課

(1)

清國事變特報 一甲 第三十四 三月十九日

特別派遣員報告 二月二十日 於重慶

秘受1422

(文中滇、黔、雲南、黔、貴州ノ別名ナリ)
蜀軍々政府ノ張都督ノ出奔

去月十五日午前蜀軍々政府都督張培爵其幕僚軍務部長方
潮珍総務所副長董維炳行政部副部長龍雲參謀林某及顧
問朱之拱ヲ隨行員シテ護衛兵約三百人爆烈表彈決死隊八十人ヲ從ヘ
資州ニ向テ出奔セリ之ノ同所ニ於テ在成前川軍政府都督尹昌衡ト會
見シ第一四川軍政府委員(蜀軍々政府委員)間ニ於テ成安事トリタル別
参照)兩都督府ニ合符實施ニ關スル協議(別紙合併決議条件合同
参照)第二援川海軍ノ撤退之蜀軍政府ト海軍ノ間ニ前ニ協定ヲ
シタルモ(別紙協訂条件ト)合江縣ニ於テ巡防兵ト海軍ト衝突演
習ノ自派井ニ於テ塩稅ノ差押(羅泉井)四川軍海軍トハ衝突
等ノ交渉第三北伐軍ノ編成及整理方法協議(爲ナリト云フ)第三南京
北京兩政府ノ協議成立ニ自然消滅スルナリ)去リテ其内情ニ至リテハ
種々秘密ノ魂膽ナルモノ如シ而シテ張都督成都重慶ノ街道即チ東
大路上ノ隆昌縣ニ於テ同地ニ於テ越年ニ所謂綿著ヲ郷ニ住スル
是(資州)至ルナリトナリシニ永川縣ニ於テ駐リタルモノ如シ是レ永川
ヨリ程遠カラズ大足縣ニ住スル余燾子弟張桂山土匪ノ親分ニ都
下約ニテ率テ下而シテ革命黨ノ四者ニ激シ豪傑ノ士ヲ招キ土匪ト爲
モ投誠ニ殊ニ團(隊)ヲスルヲ即チ豫メ率テモテテ歡迎スルヤ之ヲ多
タルニナリト革命政府ハ以外ニ人質ノ過多アリシヲ以テ中途解散
ヲ命ジル程ナリト張桂山ハ前ニ富順縣ニ於テ匪ヲ以テ捕ハレ投獄セ
タルモ子分ニ救ハレ破獄逃ビシタモノナリト)ト妨礙スル所トテ途中ニ彷徨
シ居ルヤノ風聞アリ然レテ然レ入軍政府都督ノ威カヲ驚ク外ナリト
由モ支那人常套トシテ途中漢軍彼ノ情ヲ探リテ遲クトシテ進

心
公が如く止か加手状態ヲ推察スルハ他ニ澤意ノ存在ニ多シ半日行
程ナル宜州ニ百ヲミテ未ク達セカトノ風流ハ何カ理由アルナリ

滇軍四川軍政府及其軍隊ヲ認ムル手他ニ野合アルカ

初ニ在重慶革命党員ハ諺言トク脅迫ト輕暴的其居テ清官ヲ驅
逐シ漸ク革命ヲ実施シ蜀軍ヲ建設スル成都ニ於テ先總督趙爾巽ノ
執力未ク盛ナリシヲ以テ援ヲ滇黔兩省ノ革命党政府ニ請フテ滇軍ハ
叙州附近ニテリ黔軍ハ永寧方面ニテ叙州方面他ハ基江邊ヲ經テ重
慶ニテ滇黔兩軍ヲ清官ヲ驅逐スル同時ニ土匪(同志會)ヲ鎮ニ壓スル
在成都ノ革命党員ハ趙爾巽總督トシテ兵権ヲ掌握スルヲ以テテ
容易ニ手ヲ下スヲ得ル漸ク快談ト上平穩ト革命ヲ得タリト雖モ在
重慶ノ蜀軍ハ政府及滇黔兩軍皆其ノ能ハ度ノ曖昧ナルヲ疑フナリ
八日ノ乱後四川軍政府ハ純革命党ノキニ帰シ川南軍政府ハ軍兵會
併シタルモ兩政府對共地統ニテスルハ便勢ナクナリテ兩政府ノ
合併決議ヲ爲シタリ然レニ總督ノ内情ハ假令ハ重慶ニ夜更金裕丸モ
成都ハ欠乏シ重慶ハ早ク革命シタルモ成都ハ遠シタルガ如キ又都督ノ位
置ニ執テ是彼是問着アル等アリキ未ク容易ニ實行シタズ又土匪ハ同志會
ノ名目ノ下ニ各地ヲ擾乱シ滇黔兩軍ハ之レカ鎮撫ニ任ツタレドモ其
糧餉ハ何レモ之レヲ其地方ニ仰キ叙州ニテ銀數千兩(或ハ千兩ト云フ)
モ已ニ費消シ蜀軍政府ヲ十兩(条約ニ依ルモノカ)ヲ送付シタリト云フ
而シテ蜀軍四川兩政府ハ滇軍ハ四川省ノ富有ナル地方ヲ鎮セシムル
野心も如ク猜疑多生シ先ニ際合江軍事件ヲ惹起セリ初メ
名ヲ同志會ニ借ル匪徒(テ)ヲ合江軍城ヲ圍キ知縣某城門ヲ閉
鎖シ堅守シ援ヲ叙州ニテ滇軍ニ請フテ滇軍六百兵ヲ寄シ
テ之ヲ救ヒ兩軍ヲ和解シテ今兩軍饋トテ知縣ヲ匪徒ニテテ解
散セシメ平和ニ帰シタリ然レニ叙州ニアリテ巡防隊長兵ヲ率
ヒ忽然合江ニ至リ糧庫ノ銀數千兩ヲ江島邊ニ搬出シ將ニ叙州ニ寄ラ
ントスル際滇軍ノ衝突起リ巡防隊長及兵卒數名ノ死傷者ヲ生

シ該銀兩ハ更ニ海軍ニテ保管セラレリ又四川軍政府ノ軍各地匪徒ヲ
鎮定シ羅泉井ニ至リテニ端ナク滇軍ト衝突シ積擾ヲ惹起スル事アリ
四川軍政府ノ境内ニ人臣ヲ安撫シ租税ヲ徵收スル事トシ權利ナリトシ
滇軍ハ之レカミ鎮撫シテ地方ニ入ルニ據ル稅組ヲ徵收スルハ己レノ
金庫ヲ奪ハシテ匪徒ナリトシ六蜀軍ト政府ト依頼シ未接スルモノナリ
ト意見込ニ四川軍政府及其軍隊ヲ匪徒扱ヒ居ルニアラカカ近
聞々処ニミハ滇軍ハ白浪井ノ豪家王某ノ數方兩ニ賦課セリト

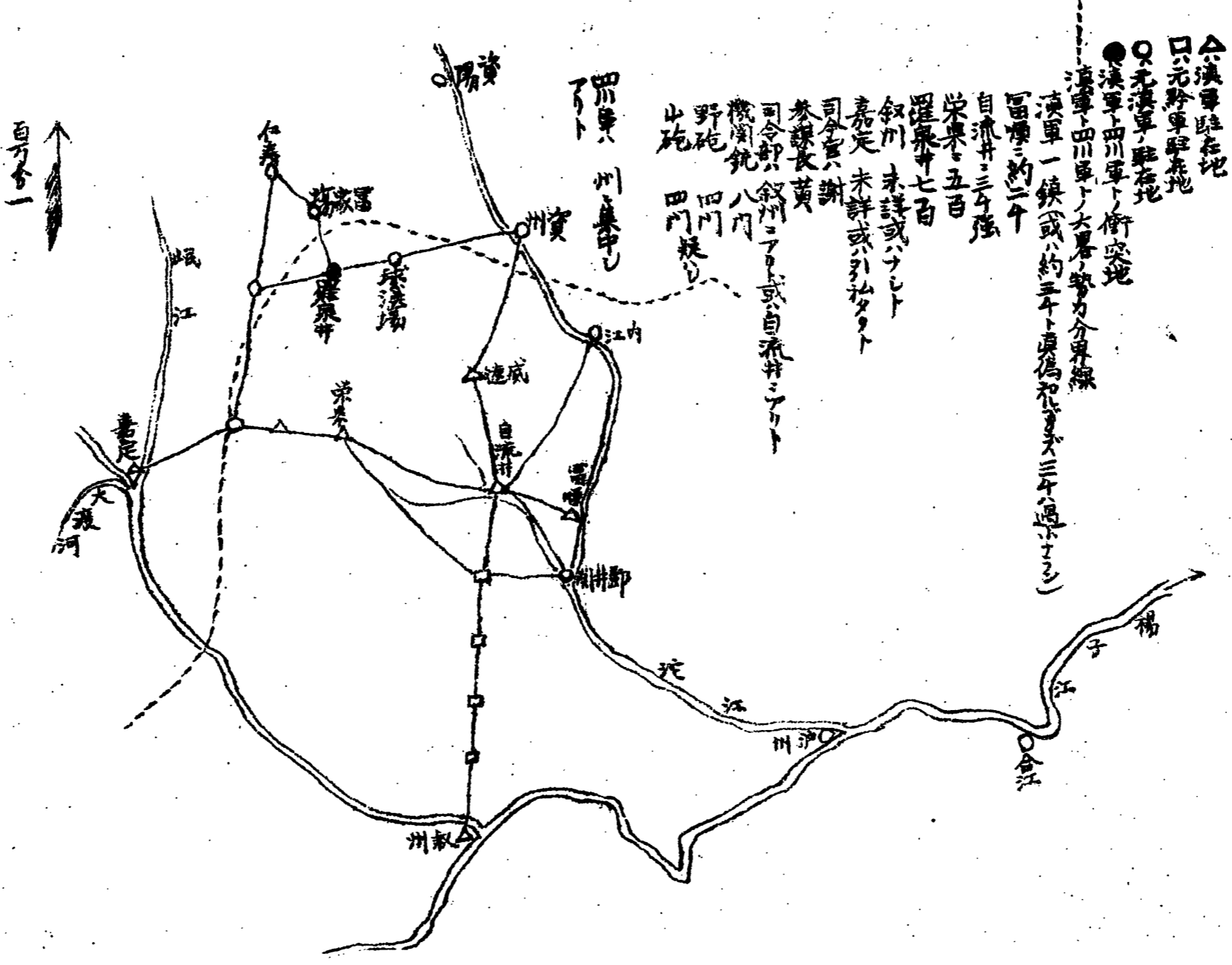
黔軍

據川軍トシ四川者ニテ重慶附近ニ駐屯シタモハ二月初旬貴州境
ノ某江軍方面ニ去リシガ他ノ部約一千ハ汝等ヲ来シリ其貴州人
民ヲ感謝旗ト其メタレシ胸間ニ懸テ居テ勇氣揚々ナリ貴州
ヲ貴州ト向フハ永安縣ヲスルノ順路ナリト傳スルニ至ルニ貴州
ニ駐ル師範學校及江浙會館ニ宿舎合シテ居ル者見テ其模樣ナリ有
等カ野心中ナリト評判ナリ当地ノ軍政府ニ於テ彼ノ要求ニモ拒
絶シテモニアラカニ十日夜ヲ日○暮暮シ軍ヲ率テ市街ノ柵門(臨
時建設)ニ至リ從來夜半零時以前閉鎖シタルモノヲ鎖シ○警嚴
密ニ嚴重ナリ而シテ飛銃銃臺等ニシテ領事館初メ我商宅ニテモ
警戒戒爲リテト數夜ナリ滇軍カ白浪井等ノ富饒ナル地方ニ據リ
去ラサルヲ見テ黔軍又之ニ倣ヒタルニアラカキ其將卒等ニ中々
裕福ニシテ店舗ニ就キ數千兩ノ貨品ヲ購フモノアリ其狀地○轉賣
セリタルモノノ如シ又兵卒ニシテ絹衣袴ヲ着レ居ル者ヲ見ル其
懐ノ温キ以テ知ルニ如斯溽黔兩軍ハ四川者ヲ空奪トス而シテ
四川者ノ或ル地方ハ西軍ノ厭クナキノ誅求ニ応カシ能ハサルヤシ然モ
現況ニテハ四川軍隊ハ到底滇黔ノ敵ニアラカル感アリ何トナレ
ハ訓練ニ於テモ部署ニ於テモ臨時新舊各土匪兵ニ優レト
方々ナリ

夏 副都督及財政部長李湛陽ニ令見

一月十日各地ノ有名銀行家大順祥、本澤陽、氏ノ即ニ合見ス
公清政府時道台格ノ人ニテ重慶財産家名望家トシテ止ラ得ズ
新政府ノ財政^政部長トシテ其局ニ當リ居ルハ已レノ財産ヲ保護セ
ンガ爲ニシテ結トモスレバ其財産ヲ減カシ恐レアリ故ニ如時期アラバ
辭シテ居ルモ、如シ而シテ都督府ニ對シテハ殆ト勢力ナク寧ロ
立君政体ニ~~カカ~~ 賛成シ居ル方ニアラサルモ感アリ
同二十日副都督夏時氏ヲ都都者ニ往訪シ革命ノ成功ヲ祝シ
善隣同志令ノ宣言並ニ決議ヲ示シタルニ彼レ照ル感謝ノ意ヲ
表シテ同氏ノ在米ニ於テ赤十字堂ノ學生タリシ人ニシテ二三軍簡
九日在米ヲ經リ得ルニ深ク解ス能ク重慶革命時成都方
面ヲ學生隊約三百人ヲ率ヒテ入城陽官ヲカ智道シテ革命
軍行ノ演戲ヲタル人ナリ氏ハ漢軍血川者ニ入区ニ居ルヲ
深ク患トナシ一日モ早く其退去ヲ希望シ居ルノ極ニ切ナル狀アリ
又漢軍ハ其顧問シテ如蘇侯氏ハアルヲ知リ憚リ居ルモ、如
シ而シテ現今四川新督部下ノ軍ヲ嘉定自流井地方ニ於テ相
対シ時ニ衝突ヲ~~カ~~ 惹起シ何時大事ニ至ルモ討テ難キ狀況ニ
アルヲ深ク気遣ヒ居ルモ、如シ一別團ハ成都方面ヲ調査シ基
礎トシタルモノナレドモ大差ナレバ叙州ニ司令部アリト云ハリ
悉シク自流井ニアリト云フモ、候ハアルニ達然而シテ夏~~時~~ノ僥倖
ニシテ重慶ハ殆ト悉ク表面ニ顯レカルル界ノ真幕即チ元中堂
ノ統率楊滄倫元帥都督堂ノ會監タリシ朱之提督ニアリテ
是等ハ實ニ蜀軍政府ノ首腦ナリ

滇軍及四川軍占據之圖



百、分、之、一

REEL No. 1-0871

0352

参照

蜀軍政府ト雲南軍ト條約

蜀軍政府ハ滇軍ト協訂合同シ蜀軍政府派全權委員總務長
謝持副長董鴻詩後川滇軍全權特派使巡按副官周永錫
副使陳先沅副官胡建勳訂立合同ト事ヲ為シテ曰ク蜀軍
政府ハ後川滇ト旧曆十一月廿六日即チ新曆正月四日各派專
員章約ヲ協訂シ旋ヘリテ後川滇軍才一梯團長協都督謝
虎履ニ格シ照行シ以テ案ニ在ス查スルニ此合同ハ既ニ雙方
認可ヲ終テ應ニ即チ訂シテ正式ノ合同ト為シ以テ使彼此
其條件ヲ遵守スルニ 開列スルハ左ノ如シ
蜀軍政府ハ成都ノ未ダ反正セザルノ先チ民賊趙南豊等
同志會ト血戰不解ノ日ニ駐防滿廣ノ兵力尙ホ雄シナルニ當
リテ蜀軍政府ハカノテ民賊ヲ誅殲シ全川ヲ恢復シ同胞
ヲ水火ヨリ出スル圖ヲ以テ中華民國ノ統一ヲ謀ル是ヲ以テ
滇軍政府ニ兵ヲ派シ川ヲ渡シ協力シテ共ニ濟シコトヲ電請
ス今滇軍川ニ到リ趙賊已ニ戮シ就クト事モ大局未ダ穩マズ
内亂未ダ清ナズ互ニ相借助ス可キ事頗ル多シ故ニ後川滇
軍ト條件ヲ各定ス

蜀軍政府ハ後川滇軍ニ請託シ協力シテ大局ヲ維持シ
民賊ヲ驅除シテ後川滇軍川ニ到ルニ兩梯團ノ餉項事件ニ
關シテ蜀軍政府ハ担任協助ノ責有自負各道轉運カラザル
時ニ當リ滇軍就地籌借各公款ヲ應給ヲ得タルハ
日後統テテ蜀軍政府ヲ籌還スルニ(附注ハ餉項ハ
毎月約五萬兩ナリ)

滇軍ハ蜀軍政府ヲ援助シテ全川軍政府ヲ調和統
一スル責アリ若シ蜀軍政府ハ滇軍ノ贊助ヲ請託ス
ル事項有ズ須ラケ全カヲ謂ヒ以テ之ニ應クベシ

援川滇軍進行方向ハ概テ蜀軍政府ノ請託ニ所依テ
參酌シ之ヲ行フ但シ方向酌定後其進行上戰術計策ハ
滇軍ノ相機行動ニテ一面ニ蜀軍政府ニ通告スベシ
援川滇軍ハ蜀軍政府ノ請託ヲ受ケル後滇軍進行シテ
過ル所後路ノ其各種行政機關蜀軍政府ヨリ自ニ建
設ヲ行フ但シ滇軍密切關係ヲ有ル地及シ權尊ヲ運輸
ニ各事ニ付テハ滇軍直接ニ該地ヲ行政機關ヲ務期
ニ籌辦ス滇軍進行ハ毫モ窒礙無シ
援川滇軍ノ到ル所地ハ蜀軍政府ノ爲メ秩序ヲ
維持スル責アリ
全川大局ノ統一廓清後ハ即チ本條約効力完結
白トナス
本條約効力完結後或モ未ダ完結セザル所蜀軍
政府及援川滇軍ガ彼此モシ他種ノ要求有ラハ別ニ
協議ヲ行フコトヲ得
本條約ハ簽字蓋印日ヲ以テ即チ實行日トス

ju

(1) 清國事変特報(甲)第三十回 三月十九日

特別派遣員報告 二月二十日 於重慶

(文中滇、雲、黔、黔、貴州、別名ナリ)

蜀軍政府、張都督、出發

去月二十日午前蜀軍政府都督張培德、其幕僚軍務部長方潮珍、總務所副長董維炳、行政部副部長龍雲、參謀林某、顧問朱之模、隨行護衛兵約二百人、燄火隊、死隊八十人、從、資州、向テ出發セリ、之、同所ニ於テ、無敵前、川軍政府都督、見シ、第一、川軍政府委員、蜀軍政府委員、間ニ於テ、成安、ナリ、(別、參照) 兩都督府、合、併、實、施、ニ、關、シ、テ、懷、議、(別、叙、合、併、決、議、条、件、合、同、シ、ル、モ) 別、叙、懷、議、条、件、上、合、江、縣、ニ、於、テ、巡、防、兵、ト、滇、軍、ト、衝、突、滇、軍、自、流、井、於、之、塩、稅、ニ、差、押、(羅、泉、井、ノ、四、川、軍、滇、軍、ト、ハ、衝、突、等、ノ、交、涉、第、三、次、軍、ノ、編、成、及、其、理、法、法、懷、議、ニ、為、ナ、リ、ト、シ、フ、(第、三、六、南、京、北、京、兩、政、府、懷、議、成、立、点、自、然、消、滅、ス、ル、ト、シ、) 去、リ、ナ、カ、ラ、其、内、情、ニ、至、リ、テ、ハ、總、務、密、令、魂、膽、ア、ル、モ、如、シ、而、シ、張、ノ、獨、異、成、都、重、慶、ノ、街、道、即、チ、東、大、路、上、ノ、隆、昌、學、校、ヲ、以、テ、同、地、ニ、於、テ、越、年、シ、所、謂、綿、着、ニ、郷、ニ、住、居、(是、) 資、州、ニ、立、ル、ナ、リ、ト、ナ、リ、シ、ニ、永、川、縣、ニ、駐、リ、タ、ル、モ、ノ、如、シ、是、レ、永、川、ヨ、リ、程、遠、カラ、又、大、足、縣、ニ、住、ル、余、蟻、子、弟、張、桂、山、主、匪、ノ、親、分、ニ、シ、テ、部、下、約、三、千、ヲ、率、テ、下、而、シ、テ、革、命、党、ノ、四、方、ニ、激、シ、豪、傑、ノ、士、ヲ、招、キ、主、匪、ト、モ、投、誠、シ、殊、ニ、團、結、シ、テ、即、チ、衆、ヲ、率、テ、モ、テ、ク、歡、迎、ス、ル、ヤ、之、ニ、知、シ、タル、人、ナ、リ、ト、革、命、政、府、ハ、以、テ、外、人、負、過、多、ク、シ、テ、以、テ、中、途、解、散、ヲ、命、ジ、ル、程、ナ、リ、ト、張、桂、山、ハ、前、ニ、富、順、縣、ニ、於、テ、罪、ヲ、以、テ、捕、レ、投、獄、セ、タル、モ、子、分、ニ、救、レ、破、獄、セ、シ、タ、モ、ナ、リ、ト、下、ノ、妨、礙、ス、ル、所、ト、ナ、リ、途、中、ニ、依、徨、シ、居、ル、ヤ、ノ、風、聞、リ、果、シ、然、ス、ル、軍、政、府、都、督、人、威、力、ヲ、驚、ク、外、ナ、リ、ト、思、ヒ、支、那、人、常、套、ト、シ、テ、途、中、滇、軍、彼、ノ、情、ヲ、探、リ、ク、進、ヲ、ト、シ、テ、進、

公和止が加半状勢ヲ推察スレバ或ハ他ニ澤意ノ存スルナシ乎四日行
經ナル資州ニ至リテ未カ達セルトノ風流ハ何カ理由アルナシ

滇軍四川軍政府及其軍隊ヲ認カル半他ニ野心アルカ

初ニ在重慶革命党員ハ謀ニ力有下野黨の是居テ清官ヲ驅
逐シ漸ニ革命ヲ実施シ蜀軍ヲ政府ヲ建設スル成都ヲ其總督趙爾巽
勢力未カ盛ナリシヲ以テ援テ滇黔兩軍有ノ革命党政府ヲ請フテ滇軍ハ
叙州附近ニリ黔軍ハ永寧方面ヲ叙州方面他ハ基江邊ヲ經テ重
慶ニ入リ滇黔兩軍清官ヲ驅逐スル同時ニ土匪(同志會)ヲ鎮壓スル
在成都ノ革命党員ハ趙爾巽總督トシテ兵権ヲ掌握シアルヲ以テ
容易ニキチ下ラシ得テ漸ク快談ノ上平穩ニ革命スルヲ得タリト雖モ在
重慶ノ蜀軍政府及滇黔兩軍皆其ノ態度ノ曖昧ナルヲ疑ハリ上青
八日ノ亂後四川軍政府ハ純革命党ノキニ帰シ川南軍政府ハ年長合
併シモ兩敵對地共地敵トシテ其ノ後ハ其ノ以テ兩政府ノ
合併決議ヲ爲シタリ然レニ趙爾巽内情ハ假令ハ其ノ實情ハ其ノ實情
成都ハ欠乏シ重慶ハ年ノ革命シタルニ成都ハ達シタルガ如キ又都督ノ位
置ニ就テモ彼是問着アル等アリキ未ダ容易ニ實行ニ至ラズ又土匪ハ同志會
ノ名目ノ下ニ各地ヲ擾亂シ滇黔兩軍ハ之レカ鎮撫ニ任ツタレドモ其
糧餉ハ何レモ之レヲ其ノ地方ニ仰キ叙州ニル銀數十萬(或ハキチ兩トシテ)
モ已ニ賸消シ蜀軍政府ヲ十萬兩ニ節約ニ依ルモノカヲ送付シタリト云フ
而シテ蜀軍四川軍政府ハ滇軍ハ四川省ノ官有土地ヲ占領セシムル
野心ハ多ク如ク精銳學生ニ先ニ際シ合江軍事件ヲ惹起セリ初メ
名ヲ同志會ニ借ルニ匪徒(オト移ス)合江軍城ヲ圍キ知縣某城門ヲ閉
鎖シ堅守シ援接ヲ沙州ニル滇軍ニ請フテ滇軍六百ノ兵ヲ送
テ之ヲ救ヒ兩軍ヲ和解シテ今兩軍饋トシテ知縣ヲ匪徒ニテテ解
散セシメ平和ニ帰シタリ然レニ沙州ニアリタル巡防隊長兵ヲ率
ヒ忽然合江ニ至リ塩庫ノ銀數十萬ヲ江邊邊ニ搬出シ將ニ沙州ニキチラ
ントナル際滇軍ノ衝突起リ巡防隊長及兵卒數名ノ死傷者ヲ生

該銀兩ハ更ニ海軍ニテ保管セシメト又四川軍政府ノ軍各地匪徒ヲ
鎮定シ爾後其ノ端ナク海軍ノ衝突シ難擾ヲ惹起スルコトナリ
四川軍自備ノ境内ニ人氏ヲ安撫シ租稅ヲ徵收スルヲ身ニ擔割リトシ
清軍ハ己レカキ鎮撫スル地方ニ入ル地ニ稅組ヲ徵收スルハ己レ
金庫ヲ奪ハシテ匪徒ナリ己ハ軍政府ノ信賴ヲ未接スルモノナリ
ト意氣込テ四川軍政府及軍隊ヲ匪徒扱ヒ居ルハアテカガ近
聞ク処ニモハ漢軍ハ自派井ノ馮家王其ハ數方同ニ賦課セリト

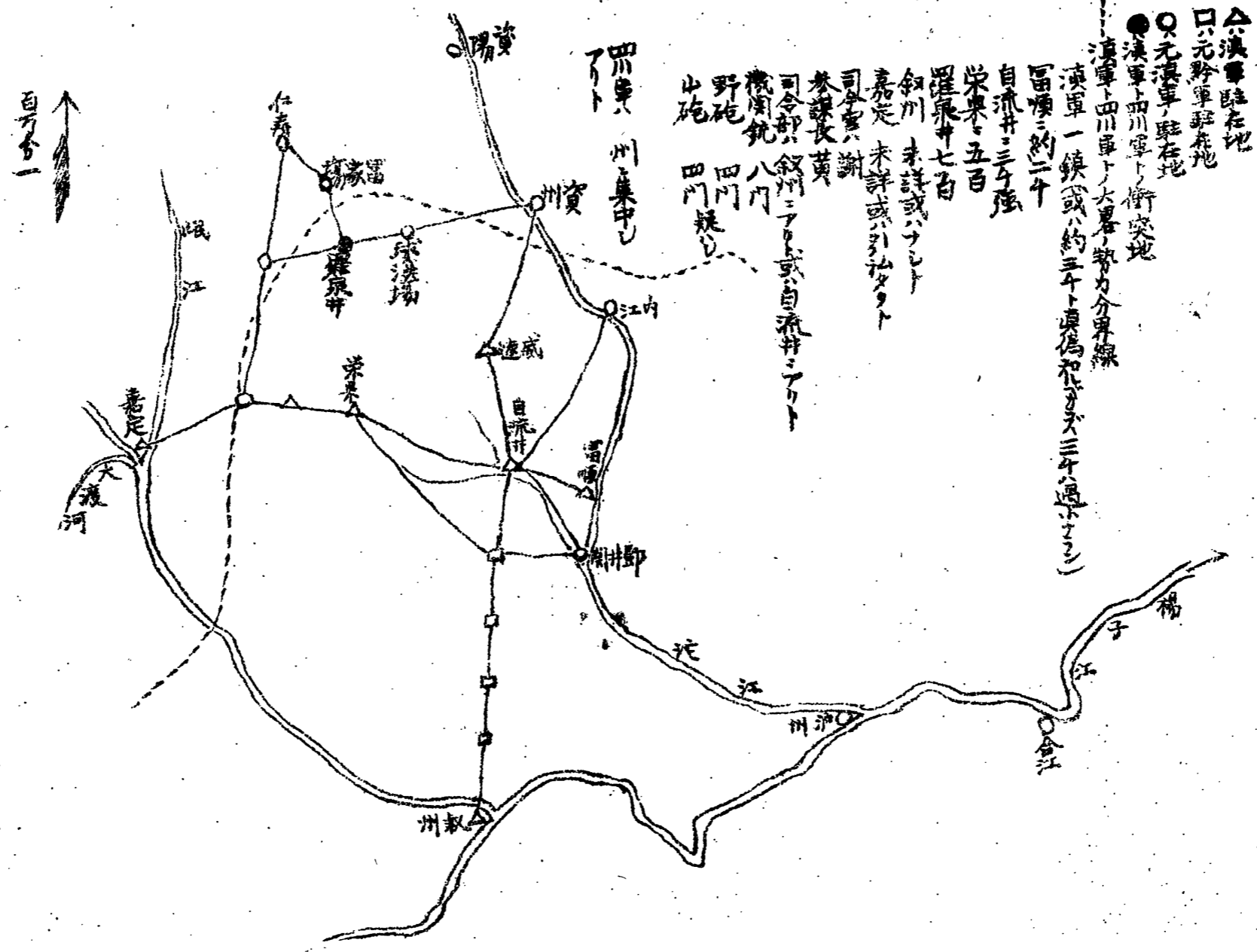
黔軍

援川軍トシテ四川者ハ入り重慶附近ニ駐屯シタモハ二月初旬貴州境
ノ綦江界方面ニオリカ他ノ部約一千人ハ在在物々ナク其貴州人
民ヲ感謝旗トシ其ノタビヲ陶陶ニ懸テ居リ意氣揚々ナリ貴州
ヨリ貴州ニ向テハ永安科ヲスルハ險路ナシニ係ラスナルナリ
二縣ノ師範學堂及江浙會館ニ宿舎合シテ居ルモノナリ
等カ野心ハナラシノ評判ナリ當地ノ軍政府ニ於テ彼ノ要求ニモ拒
絶シタルモノニアリカニテ日度ヨリ日ニ軍ヲヨリ市街ノ柵門(隘
路)ヲ閉ジシメテ從來ニ夜半零時頃決別銀シタルモノヲ鎖シ
越ハ嚴重ナリ而シテ既記語ニ據ルニテ領事館初メ我高志ニテモ
發見セリナラト數夜ナリ漢軍カ自派井著ノ富饒ナル地方ニ據リ
去ラカルヲ見テ黔軍又之ニ倣ハスルハアテカガ手其將率其
總務ニシテ店舖ニ就キ數千兩ノ貨品ヲ購フモノアリ其狀越々
セリスルモノナシ又兵卒ニシテ絹衣袴ヲ着シ居ル者ヲ見ル其
懷ノ温キ以テ知ルハハ斯漢黔兩軍ハ四川者ヲ宜存ナラス
四川者ノ或ル地方ハ西軍厭クナリ謀求ニ応カシ能ハカルマシ然モ
現況ニテハ四川軍隊ハ到底漢黔ノ敵ニアラカシ感アリ何ナレ
バ訓練ニ於テモ故置ニ於テモ臨時新首長ノ土匪兵ニ優レト
万々ナリ

夏副都督及財政部長李湛陽ニ會見

有古き地ノ有名ニ銀行家天順祥、本漢陽ノ氏即ニ金銀ノ
氏清政府時道台格ノ人ニテ重慶ノ財産家名望家ト云々得ル
新政府ノ財政^政部長トシ其局ニ當リ居ルハ己ノ財産ヲ保護セ
ンガ爲ニシテ精トモスレバ其財産ヲ減スル恐レアリ故ニ其時期アラバ
辭シテ居テ、如シ而シテ新政府ニ對シテハ路ト勢力ナク寧ロ
立君政体ニ~~シテ~~ 贊成シ居ル方ニシテナル事ニ感アリ
同日副都督夏^政時氏ヲ都都府ニ任封シ革命ノ成功ヲ祝シ
善勝同志會ノ宣言並ニ決議ヲ示シ、其後ニ對シテ感謝ノ意ヲ
表シ、同日氏ノ在米ニ於テ年結ニ對シテ重慶革命ノ時成都方
九日在米ニ歸リ得ルに際シ、解任ノ辭ヲ重慶革命ノ時成都方
面ヲ學生隊約三百人ヲ率ヒテ入城、傷官ニ力智過シテ革命
実行ノ演説ヲナシ、人ナリ氏ハ漢軍血川者ニ入ルニ居ルヲ
深ク思フナレトモ早く其退去ヲ希望シ居ルノ極ニ切ナル狀アリ
又漢軍ハ其顧問トシテ加藤侯氏氏アルヲ知リ、憚リ居ルモ、如
シ而シテ現今四川新都督下ノ軍ヲ嘉定自流井地方ニ於テ網
對シ時ニハ衝突ヲ~~シ~~ 惹起シ何時大争ニ至ルヤモ討テ難キ狀也
アルヲ深ク憂慮シ居ルモ、如シ別圖ハ成都方面ヲ調査シ、基
礎トシタルモノナレドモ大差ナレバ、叙州ニ司令部アリト云ハ
去レテ自流井ニアリト云フモノ候、乃チアル事然ラシテ、復シ、傀儡
ニシテ實權ハ路ト悉ク表面ニ顯レカルル界ノ真幕即チ元中堂
ノ統帥楊滄、伯元、師範學堂ノ會監タリシ、殊ニ楊等ニアリテ
是等ハ實ニ蜀軍政府ノ首腦ナリ

滇軍及四川軍占據之圖



参照

蜀軍政府ト雲南軍ト條約

蜀軍政府ハ滇軍ト協訂合同シ蜀軍政府派全權委員總務長謝持副長董鴻詩援川滇軍全權特派使巡按副官周永錫副使陳先沅副官胡建勳訂立合同ト事ヲ爲シテ曰ク蜀軍政府ハ援川滇ト旧曆十一月於六日即チ新曆正月四日各派專員草約ヲ協訂シ旋ヘリテ援川滇軍第一梯團長協都督謝電覆ニ格シ照行シ以テ案ニ在ス查スルニ此合同ハ既ニ雙方認可ヲ終テ應ニ即チ訂シテ正式ノ合同ト爲シ以テ使彼此其條件ヲ遵守スベシ、開列スルハ左ノ如シ

蜀軍政府ハ成都ノ未ダ反正セザルノ先チ民賊趙南暉等同志會ト血戰不解、日ニ駐防滿廣、兵力高ハ雄シテニ當リテ蜀軍政府ハカノテ民賊ヲ誅殲シ全川ヲ恢復シ同胞ヲ水火ヨリ出ス、圖リ以テ中華民國ノ統一ヲ謀ル是ヲ以テ滇軍政府ニ兵ヲ派シ川ヲ援ヒ協力シテ共ニ濟シントテ電請ス今滇軍川ニ到リ趙賊已ニ殲シ就クトモ大局未ダ穩ナク内乱未ダ清ナク互ニ相借助ス可キ事頗ル多シ故ニ援川滇軍ト條件ヲ畧定ス

蜀軍政府ハ援川滇軍ニ請託シ協力シテ大局ヲ維持シ民賊ヲ驅除シテ援川滇軍川ニ到リ西梯團ノ餉項事件ニ関シテ蜀軍政府ハ担任協助責有但進轉遞カニサレバ時ニヨリ滇軍就地籌借各公款ヲ應給ヲ得タレバ日後統テ蜀軍政府ヲ籌還スベシ(附注ハ餉項ハ毎月約五萬兩ナリ)

滇軍ハ蜀軍政府ヲ援助シテ全川軍政府ヲ調和統一スル責アリ、若シ蜀軍政府ハ滇軍ノ贊助ヲ請託スル事項有ス須ラシテ全力ヲ謁シ以テ之ニ應クベシ、

援川滇軍進行方向ハ概テ蜀軍政府ノ請託スル所以テ
参酌シ之ヲ行フ但シ方向酌定後其進行上ハ戰術計畫ハ
滇軍ノ相繼行動ニテ一面ハ蜀軍政府ニ通告スベシ
援川滇軍ハ蜀軍政府ノ請託ヲ受ケタル後滇軍進行レテ
過ル所ノ後路ノ其各種行政機關ハ蜀軍政府ヲ自ラ建
設ヲ行フ但シ滇軍密切關係ヲ有スル地及ビ糧草ヲ運輸
スル各事ニ付テハ滇軍直接ノ該地方行政機關ヲ務期
ニ籌辦ス滇軍進行ハ毫モ窒碍無シ
援川滇軍到ル所ノ地ハ蜀軍政府ノ為ニ秩序ヲ
維持スル責アリ
全川大局ノ統一廓清後ハ即チ本條約効力完結
ノ日トナス
本條約効力完結後或ハ未ク完結セザル所ノ蜀軍
政府及援川滇軍が彼此モシ他種ノ要求有ラハ別
協議ヲ行フコトヲ得
本條約ハ簽字蓋印ノ日ヲ以テ即チ實行ノ日トナス

清国事要特報 第三十四回 三月二十日
特別派遣員報告 三月三日 於廣西梧州

廣西者ニ於ケル政変 一月十五日廣西省都督陸榮廷ハ突然部

下ヲ率ヒ土匪討伐ヲ名トシテ廣西首府ヲ南寧ニ移ス目的ヲ陸
陸柳州潯州ヲ經テ南寧ニ向リ元來陸氏ハ廣西ニ於ケル盜賊ノ主
將トシテ斯界ニ推サレタルニテ南寧ニ地方ハ彼レ元來ノ根據地ナリ

而シテ此處ノ政変以來陸氏ト廣西共和黨新政府ノ假人トナルヲ得
ズトテ野ニ派ヲ結ビテトノ友情親密ヲ欠キ較クモスレバ自己職權侵
サレ下ルル勢ナリ即チ是レ彼レハ桂林ヲ去リ南寧ニ赴キ此地ヲ廣西省
城トシテ計畫ノ理面ニ於ケル理申リ而シテ陸氏ノ此省城ヲ轉キ英斷ハ大ニ
社会ノ注目ヲ惹キ土俗人民ニ歡迎サレツアリソノ理由申スレトコ左ノ如キカ

- 一 桂林ハ南下交通上ヲ見テ位置北ニ迫ル
- 一 佛國ノ勢力漸ク越南ニ扶殖セラレタル今日邊境防備上南寧
ニ中心ヲ置クコトハ頗ル時宜ニ適セルコト
- 一 廣西ニ於ケル實業的發展ハ桂江流域ヲモ 西江流域ヲ價値
アリト認メシテオルコト

如上記スルガ如ク彼レハ轉都ハ政治上軍備上頗ル識者ノ注目ヲ惹キ
商業上ニ於テモ桂林ヲ中心トセル地方ニ注目スルハ復他ハ漸ク
減少シ促ラテ梧州ノ貿易ニ影響ヲ及ボスマク当地有識者ハ既ニ前
述スル如ク途見レ南寧ニ向テ發展ノ計畫ヲナシツアリ
而シテ茲ニ特筆スルコトアリ即チ數日前より安南ニ蜂起ス
支那ノ一擧ナリ三年前一度佛軍ヲ苦シメ又今勢力恢復
ヲ名トシテ佛領安南ニ侵入シ大ニ佛國ヲシテ惱マシメアリ
即チ陸都督ノ轉都ト共ニ彼等益勢力ヲ得テ又茲ニ國
際上ノ問題ヲ惹起スルヤ必セリ

特別派遣員報告 三月三日 於温州

温州二十七日迄年其業修約依リテ開港セリ然レテ開港以來甲
餘年重箱ヲ経テトモ人民進情柔弱モテ氣概ナク實テ文明刺
激ヲ受ケザルモノ如シ故ニ一般人民ハ勿論紳士ト林凡人物トモ殆ド不識スル
ニ足ルモノ之カ爲メ今回革命如キモ杭州ヨリ電報ヲ以テ迫マシタリ結
果通告知府ハ避セリ僅ニ同時後路統領梅鶴亭ヲ勸メテ温州軍政分
府都督ニ推シ一時秩序ヲ保持シ以テ梅統領ハ軍ニ軍司令官トナリテ
專ラ軍務ヲ從事シ行政決定知テ民政長トシ以テ今日迄モ
ノナリ故ニ当地ニ於テ純革命党ナルモノナク甯波ト同シ紳士等相協
同シテ一時秩序ヲ保持シ過キス此如ク然ラテ文明的政路思
想ハ皆更トシテ決シテ証言ニアラザリ

當府下瑞安県ニ數年前故人トナリシ有名ナル經學者孫某アリしか
爲一般向學ノ風ニ由リテモ頭腦ハ概シテ時代ニ後居ルヲ免ズ數年前
新學ノ風稍盛ニ我國ニ留學シタルモノ百四十名ニ達シタル由シモ
學業成リタル後ハ妻リハ地方ニ留ラズ他者ニ出テ職ヲ求メ日
下三十名ノ留學生ヲ得來シ居ルモ妻リハ學業未ダ十分ナク
從テ地方ニ重キヲナスニ至ラズ彼等留學生ハ陽曆一月以來東
瀛日報ト稱スル新聞ヲ興シ革命ヲ鼓吹シ居ルモ頗ル幼稚ニシテ
一般ヲ警醒スルニ足ラズ況テ一日癸刊部教ハ僅ニ六七百ニシテ殆
ド其明治初年ノ程度ニモ如カザルガ如シ

徐民政長ハ年數ニテ許頗ル君子ノ風アリ學識官歷共ニ當
地ノ人望ヲ繫クニ足ル又學生等ノ進言ヲモ經營ノ許ス限リハ之
ヲ容ルル以テ頗ル人望アリ然レモ其子某ナルモノ父ノ威ヲ假リテ
住々悪業ヲ働ク由リテ其累ヲ又ニ及ホシ一部ノ人々同ハ徐氏
ヲ排弁セントスルモノアリト聞ケリ要スルニ徐氏ハ如キハ温厚モシテ
要事ヲ好ム好老人ナリト云モ夫レテ創業ノ敏腕家ニアラズ
留學生モ亦ニ革命ヲ三ノ革命命ヲ經ルニアザレバ温州人ノ
情狀ハ到底覺醒シ難シト云ヘリ

軍政分府司令部道台衙門ニ設ケ後陸統領梅鶴亭氏ニが長
リト軍司令部ニ出張スルニ歸ニテ非常ニ私宅ニ居リ司令部
將務ト其手トシテ格統帥ノ自衛甲余カガ如ク軍人的ニ活快ニ
談話シ甚ダ志ヲ巧ナリ固ク安徽人ニテ革命ノ道ヲ知
府ト同ジク逃セテ下企テクル由レロニ紳士學生等ニ勸メテ留
任シタルモノナリト而シテ十令ノ軍事智識ナク幸任出身ニテ以前
ハ隨分^愚事ヲ傳キタルニテ一般ノ人望ハ乏ナキモ兵ヲ擡ス
スルヲ以テ一旦彼ガ辭職スルコトアラバ其部下ノ兵士ノ乱暴ヲ
コトシテ留任セシメ虚位ヲ留シテ居リトニテ^{彼部下}梅鶴亭氏
ルモノニ懲ラる人ニシテ一^部ノ處州ニ駐在シ其他各處ニ派遣シテ
ルヲ以テ目下温州ニ在ルモノハ百四十名ニ過ラズ城内内務秩序
ヲ保ツ爲メニ八十名ノ警察ト十名ノ商團及ビ今名ノ民團アリ
而シテ当地ノ警察ハ殆ト用ヲナシ^無ニ^{民團}民團ニ警察費
ヲ拒ムモノアル爲メ經費不足ヲ生シ甚カク困難ナリト云フ
商會ノ會長ハ余朝紳ト稱シ翰林出身ト由ニ其年齢五下
余ナルアリ非常ノ人望アリ目下商團長及ビ城自治會々長ヲ
兼任スル此人モ亦時代塵ノ人ニシテ唯温厚無爲ナルヲ以テ當
地人ニ尊重セラルルモ有爲ノ人オトハ見難ク受テ難シ余ノ革命
ノ當時本省ニ於テ八都統ヲ免除シ厘金ヲ廢止シ又由^於此ガ爲
地ハ如何ニシテ行政ノ經費ヲ得ルハカト問ヒタルニ皮ハ塩^關關
稅トヲ以テ支弁シ居リト答フ余ハ再ビ塩捐六國稅ヲ屬スルヲ
又關稅ハ各國賠償ノ擔當モノナレバ地方ニテ使用シ得ル^は鹽稅
問フ彼日ク温州ハ地方貧困ニシテ貿易又盛ナラズ他ニ賦課
ナキヲ以テ一時之ヲ流用スルコト此等ノ人ハ唯地方的觀念ノ
ニシテ更ニ口家ヲ觀念ナキモノ如シ温州ノ振ハル推テ知
ルベシ

民團長ハ官渭英字文起自トナス氏ハ嘗テ福州ノ知府トシ

ナ今名りし人由テ日本人親交アリトシラ氏ハ拳会自身ニテ福建
省候神道台ナリ氏ハ謝達ニテ談吐ノ間才幹ヲ身認ム留學
生間ニ非常ニ人望アリト一般ノ士人同六野心家トテ敬遠セラ
レ居ル由リ氏ハ盛ニ日本ヲ稱揚シ日本ノ同情ヲ感謝シ心ハ革
命ヲ成立セシメ將來ノ發展ヲナシトスルニ日本ノ同情アル援助
ヲ仰ガカルヲ得ルガルト云ヘリ向キ温州ノ民食乏乏ルルハ商
会ノ依托ヲ受テ上海ニ多量ニ米ヲ買入レ六千石移ス余
ト同航ニテ帰温ノ後日々原價ヲ以テ貧民ニ賣下ケルナリ
右諸氏ノ外目下城内ニ於ケル名望ニ紳士ハ会商ノ会量等位
ニシテ其他ニ華人命事者多ク鼓吹モ八日有留學シタル生
等ノ派ニ過ズ而シテ現ニ城内ニ留シ人十數人ニ過ズシテ多
ク帰郷中ナリト云フ留學生ハ皆若輩ニテ學識經驗ニ於テ
共ニ間然スルト云フナラカレ概シテ温健ノ思想ヲ有スル
新智識ヲ有スルニシテ一般ニ多クノ尊敬ヲ拂ハレ居ル如シ
從テ温州ニ於ケル對日本人感情ハ好融和セルヲ覺ユ

清國事要特報 第三十四 三月二十日 於廣西梧州
特別派遣員報告 三月三日

廣西者於其政變 一月十五日廣西者都督陸榮廷の突然部

下率と土匪討伐ヲ名トシテ廣西首府ヲ南寧ニ移ス目的ヲ陸
路柳州潯州ヲ經テ南寧ニ向リ元來陸の廣西於此盜賊之主
將トシテ斯界ニ推サレ名人ニシテ南寧地方ハ彼レ元來根據地ナリ

而シテ此度ノ政變其陸の廣西共和黨新政府ノ假人トナルヲ得
ズトシ野ニ派ヲ結ビテトノ友情親密ヲ欠キ較クモストバ自己職權侵
サレトスん勢ヲ即チ是レ彼レガ桂林ヲ去リ南寧ニ赴キ此地ヲ廣西者
城トセテ計畫ノ理面ニ於テ理申リ而シテ陸の此者城ヲ轉々英斷ハ大ニ
社会注目ヲ惹キ主般ノ人民ニ歡迎サレソアリソノ理由トシテ左ノ如キカ

- 一 桂林ハ南下交通上ヲ見テ位置北ニ迫ル
- 一 佛國ノ勢力漸ク越南ニ扶殖セラレシトスル今日邊境防備上南寧
ニ中心ヲ置クハ頗ル時宜ニ適セル
- 一 廣西ニ於テ實業的發展ハ桂江流域ヲモ 西江流域ヲ價値
アリト認メシオレト

如上記スルガ如ク彼レガ轉都ハ政治上軍備上頗ル識者ノ注目ヲ惹キ
商業上ニ於テモ桂林ヲ中心トセル地方ニ注目スルハ漸ク
減少レ促テ梧州ノ貿易ニ影響ヲ及ボスガ当地有識者ハ既ニ前
途ヲ透見シ南寧ニ向ッテ發展ノ計畫ヲナシツアリ
而シテ茲ニ特筆スルキコト一アリ即チ數日前ヨリ安南ニ蜂起シ
支那ノ一擧ナリ三年前一度佛軍ヲ苦シメ又今勢力恢復
ヲ名トシテ佛領安南ニ侵入シ大ニ佛國ヲシテ惱マシメアリ
即チ陸都督ノ轉都ト共ニ彼等益勢力ヲ得テ又茲ニ國
際上ノ問題ヲ惹起スルヤ必セリ

特別派遣員報告 三月三日 於温州

温州二十七日迄年其東條約依リテ開港セラルル也。温州は未だ
餘軍軍糧ヲ絶トスルモ人民進情柔弱モク氣概ナク膏ニ文明ヲ
激シテ進ガリシコト如シ故ニ概人民ハ勿論紳士ト林凡人所ト品モ殆ド下談スル
ニ足ルモノナシ之カ爲メ今回革命ノ如キモ杭州ニ電報ヲ以テ迫マシタル結
果通告知府ハ避セリ僅ニ同時後路統領梅鶴亭ヲ勤メテ温州軍政分
府都督ヲ推シ一時秩序ヲ保持シ以テ梅統領ハ軍司令官トナリテ
專ラ軍務ヲ從事シ行政徐定超ヲ推シテ民政長トシ以テ今日迄モ
ノリ故ニ当地ニ於テ純革命党ナルモノナク寧波ト同リ紳士等相協
同シテ一時ノ秩序ヲ保ツニ勤メタルニ過キス此ノ如ク然ラズ以テ文明的政治思
想ハ皆裏トシテ決シテ証言ニテアガリナリ

當府下瑞安果ニ數年前故人トナリ有名ナル經學者孫某アリシカ
ル一般ニ向学ノ風ニ由リテモ頭腦ハ概シテ時代ニ後居ルヲ免ラズ數年前
新学ノ風稍盛ニ我國ニ留学シタルモノ百四十名ニ達シタルニ由リテ
学業成リタル後ハ多クハ地方ニ留テ他者ニ出テ職ヲ求メ目
下三十名ノ留学生生帰來シ居ルモノ多クハ学業未ダ十分ナク
從テ地方ニ重キヲナスニ至ラズ彼等留学生ハ陽曆一月以來東
甌日報ヲ採ルニ新聞ノ興シ革命ヲ鼓吹シ居ルモ頗ル幼稚ニシテ
一般ヲ覺醒スルニ足ラズ況ニ昨日發刊部教授僅ニ六七百ニシテ殆
ド我明治初年ノ程度ニモ如カザルガ如シ

徐民政長ハ其數年許頗ル君子ノ風アリテ學識官歴共ニ當
地ノ人望ヲ蒙クニ足ル又學生等ノ進言ヲモ経費ノ許ス限リハ之
ヲ容ルルヲ以テ頗ル人望アリ然レモ其子某ナルモノ父ノ威ヲ假リテ
住々馬車ヲ働ク由ニテ其累ヲ又ニ及ホシ一部ノ人士同ニ徐氏
ヲ排斥セントスルモノアリト聞ケリ要スルニ徐氏如キ温厚ニシテ
要事ヲ好ム好老人ナリト品モ決シテ創業ノ敏厥家ニテニテ
留学生モ亦ニ革命ヲ三革命命ヲ經ヒニアザレバ温州人ノ
情眼ハ到底覺醒シ難シト云ヘリ

軍政分府司令部道台衙門に設け、後階統領梅鶴亭氏に長
 リト、軍司令部に勤務スルニ籍ニテ、非常ニ私宅ニ居リ司令部
 精務に専事スルノ一指揮然レ其年齢四十余才が如キ軍人的ニ活潑ニ
 語話し甚だ志氣に巧ナリ、固シク安徽人ニシテ革命ノ當時道台衙
 府ト同ジク逃亡セシテ企テクル由レシメ紳士學生等ニ勸ムラレテ留
 任シタルモノナリト而シテ十分ノ軍事知識ナク幸任出身ニテ以前
 ハ隨分軍界ヲ働キタルモノニテ一般ノ人即チハ之ナキモ兵ヲ擁ス
 スル以テ一旦彼ガ辭職スルコトアラバ其部下ノ兵士ノ乱暴ヲセシメ
 ヲ恐レテ留任セシメ虚位ヲ留シシメ居レリト云フ、後部梅鶴亭氏
 ルモノハ二階堂ニ居ル人ニシテ一ツツハ處刑ニ懸在シ其他各處ニ派遣シテ
 ルヲ以テ目下温州ニ在ルモノハ百四十名ニ過ラズ城内ノ治安秩序
 ヲ保ツル爲メハ八十名ノ警察トシ十名ノ商團及ヒ十分名ノ民團
 而シテ當地ノ警察ハ殆ト用ヲナサレシメ、梅鶴亭氏問ニ警察警察
 ヲ拒ムモノアル爲メ經費不足ヲ生シ甚だ困難ナリト云フ、
 商會ノ會長ハ余朝紳ト稱シ翰林出身ニ由テ其年齢五十
 余ナルヤリ非常ノ人望アリ目下商團長及ヒ城自衛會々長ヲ
 兼任シ此ノ人モ亦時代履ケ人ニシテ唯温州無爲ナルヲ以テ其
 地ニ尊重ス重シク居ルモノ有爲ノ人オトハ見難ク受テ難シ余ノ革命
 ノ當時本省ニ於テ六組織ヲ免除シ厘金ヲ廢止シタル由ナルガ多
 地ハ如何ニシテ行政經費ヲ得ランカト問ヒタルニ彼ハ塩捐ト關
 稅トヲ以テ支弁シ居レリト答フ余ハ再ヒ塩捐ハ商團稅ニ屬スルモノ
 又關稅ハ各國賠償ノ抵當タルモノナル地方ニテ使用シ得ルハ地
 同ク彼日ク温州ハ地方貧困ニシテ貿易又盛ナラズ他ニ財源
 ナキヲ以テ一時之ヲ流用スルコト此等ノ人ハ唯地方的觀念ノミ
 ニシテ更ニ口實ヲ觀念ナキモノ、如シ温州、振興ニ推テ知
 ルベシ

民團ノ長ハ官清英字文起自トナス氏ハ官ヲ福州ノ知府トシ

ナ今名アリ人由テ日本人親交アリト云フ氏ハ拳会出身ニテ福建
省ノ候補道台ナリ氏ハ朝達ニテ談吐ノ間才幹アリ認ムル學
生間ニ非常ニ人望ニシテ一般ノ士人同テ野ハ家トテ教遠セラ
レ居ル由ナリ氏ハ盛ニ日本ヲ稱揚シ日本ノ同情ヲ感謝シ心ヲ革
命ヲ成立セシメ將來ノ發展ヲサントスルニ日本ノ同情アル援助
ヲ仰ガカルヲ得ルガハト云ヘリ向キニ温州ノ民食缺乏スルハ商
會ノ依テ受テ上海ニ多量ノ米ヲ買入レ六千石移ス余
ト同航ニテ帰温ノ後日多原僑ヲ以テ貧民ニ賣下ケナリ
右諸氏ノ外目下城内ニ於ケル名望アリ紳士ハ會商ノ會量等位
ニシテ其他ニ革命命事等ヲ鼓吹スルハ日本ニ留學シタル學生
等ノ派ニ過ズ而シテ現ニ城内ニ留學スルハ十數人ニ過ラズシテ多
ク歸郷中ナリト云フ留學生ハ皆若輩ニテ學識經驗ニ於テ
共ニ同然スルト云フナリアラカシ極シテ温使ノ思想ヲ有スルト
新智識ヲ有スルト云フ一一般ニ多クノ尊敬ヲ拂ハレ居ルガ如シ
從テ温州ニ於ケル村日本人感情ハ好ニ融和セルヲ覺ユ

清國事要特報 甲 第三二四 三月二十日
特別派遣員報告 三月三日 於廣西梧州

廣西者於今政變 一月十五日廣西省都督陸榮廷の突然部下率と土匪討伐ヲ名トシテ廣西首府ヲ南寧ニ移ス目的ヲ陸路柳州潯州ヲ經テ南寧ニ向リ元來陸氏の廣西於此盜賊之主將トシテ斯界ニ推サレタル人ニシテ南寧地方ハ彼レ元來根據地ナリ而シテ此度ノ政變以來陸氏ト廣西共和黨新政府ノ假人トナルヲ得ズトシ野ニ派ヲ結ビテトノ友情親密ヲ欠キ較クモスルバ自己職權侵サレ下ル勢アリ即チ是レ彼レハ桂林ヲ去リ南寧ニ赴キ此地ヲ廣西省城トセテ討議ノ理面ニ於テ理申リ而シテ陸氏ハ此省城ヲ轉々英斷ハ大ニ社會ノ注目ヲ惹キ主般ノ人民ニ歡迎サレツアリソノ理由申スレバ左ノ如キナリ

- 一 桂林ハ月下交通上ヲ見テ位置北ニ近ズ
- 一 佛國ノ勢力漸ク越南ニ扶植セラレシトシ今日邊境防備上南寧ニ中心ヲ置クコトハ頗ル時宜ニ適セルナリ
- 一 廣西ニ於テ實業的發展ハ桂江流域ヲモ西江流域ヲ價値アリト認メラレオルコト

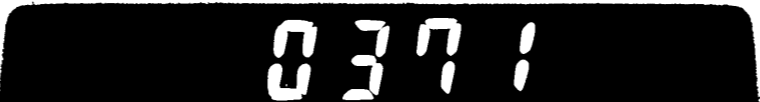
如上記タル如ク彼レハ轉都ハ政治上軍備上頗ル識者ノ注目ヲ惹キ商業上ニ於テモ桂林ヲ中心トシ地方ニ注意スルハ貨物ハ漸ク減少シ促ツテ梧州ノ貿易ニ影響ヲ及ボスバ当地有識者ハ既ニ前途ヲ透見シ南寧ニ向ツテ發展ノ計畫ヲナシツアリ而シテ茲ニ特任事トシテアリ即チ數日前より安南ニ蜂起シ支那人ノ一擄ナリ三年前一度佛軍ヲ苦シメ又今勢力恢復ヲ名トシテ佛領安南ニ侵入シ大ニ佛國ヲシテ惱マシツアリ即チ陸都督ノ轉都ト共ニ彼等益勢力ヲ得テ又茲ニ國際上ノ問題ヲ惹起スルヤ必セリ

特別派遣員報告 三月三日 於温州

温州二十八年七月年其果條約依リテ開港セシメタル也然レテ開港以來甲
餘年運糧ヲ終スル事モ人民適情柔弱モテ氣概ナク嘗テ文明新
識ヲ受ケザルモノ如シ故ニ般人民ハ勿論紳士ト称スル人物トモ殆ド談スル
ニ足ラズ之カ爲メ今回革命ノ如キモ杭州ヨリ電報ヲ以テ迫ラシタレ
果適知府ハ健シレ僅ニ一時後路統領梅鶴亭ヲ勸メテ温州軍政令
府都督ヲ推シ一時秩序ヲ保持シタリ梅統領ハ軍ニ軍日令官トナリ
專ラ軍務ヲ従事シ行政徐定知府准シテ民政長トシ以テ今日迄モ
ナリ故ニ当地ニ於テ純革命党ナクモナリ甯波ト同リ紳士等相協
同シテ一時秩序ヲ保シ勸メタルニ過キス此ノ如クナリテ文明的政治思
想ハ皆要トスルモ決シテ証言ニアラザルナリ

當所下瑞安果ニ教年可故人トナリ有名ナル經學者孫某アリしか
多ク一般ニ向学ノ風ニ由リテモ頭腦ハ概シテ時代ニ後居ルヲ免ズ教年未
新学ノ風稍盛ニ我國ニ留学シタルモノ百四十名ニ達シタルニ由リ
学業成リ後ハ多クハ地方ニ留メテ他者ニ出テテ職ヲ求メ目
下三十名ノ留学生得來シ居ルモ其ノ学業未ダ十分ナク
從テ地方ニ重キナラスニ至ラズ彼等留学生ハ陽曆一月以來東
亞日報ト稱スル新聞ヲ與シ革命ヲ鼓吹シ居ルモ頗ル幼稚ニシテ
一般ヲ警醒スルニ足ラズ況テ一日発刊部教權ニ六七百ニシテ殆
ド我明治初年ノ程度ニモ如カザルガ如シ

徐民政長年餘ニテ許頗ル若子人ノ風アリ学識官廳共ニ當
地ノ人望ニ攀クニ足ル又学生界ノ進言ヲモ経費ノ許ス限リハ之
ヲ容ルルヲ以テ頗ル人望アリ然レモ其子某ナルモノ父ノ威ヲ假リ
住々悪事ヲ働ク由ニテ其田舎ヲ又ニ及カレ一部ノ人共同ニ徐氏
ヲ排斥セントスルモノアリト聞ケリ嘗スルニ徐氏ノ如キハ温厚ニシテ
悪事ヲ好ム好老人ナリト云モ決シテ創業ノ敏腕家ニアラス
留学生モ亦ニ革命ヲ三ノ革命ヲ經ヒテアザレバ温州人ノ
情眼ハ到底覺醒シ難シト云ヘリ



軍政分府司令部白道台衙門に設け、後路統領梅鶴亭氏が長
リト、軍司令部ニ出張スルニ、編ニシテ、軍常ニ私宅ニ居シリ司令部天
將格ト上キルノ人ニ格統帥ノ身、齡甲余太カカリ、軍人の生活快ニ
談話シ甚ダ、志ヲ以テ、巧ナリ、聞ク、安徽人ニシテ、革命ノ道、台布
府ト同ジク、逃亡セテ、企テ、ル由シ、レニ、紳士、學生等ニ、勸メ、テ、留
任シ、タル、ナリト、而シテ、今ノ、軍事、智識、ナク、率任、自身、ニテ、以前
ハ、隨分、^悪事ヲ、佛キ、タル、ニテ、一般ノ、人、望、ハ、之、ナキ、兵ヲ、擁ス
スル、以テ、一旦、彼ガ、辭職、スル、ト、テ、其、部下ノ、兵士、乱暴、セシメ
テ、恐キ、留任、ト、シ、虚位、ヲ、自ラ、シ、居、シ、リ、ト、ニ、^{後、部下}梅鶴亭、屬ス
ル、人、ニ、學、ス、ル、人、ニ、シ、テ、一、部、ハ、處、カ、ニ、駐、在、シ、其、他、各、處、ニ、派、遣、シ、テ
ル、ヲ、以、テ、目下、温州、ニ、在、ル、人、ハ、百、四、十、名、ニ、過、キ、ス、城、内、海、軍、積、序
ヲ、保、ツ、爲、メ、ハ、八、十、名、ノ、教、育、寮、ト、十、名、ノ、商、團、及、ビ、今、名、ノ、民、團、アリ
而シテ、当地ノ、教育、寮、ハ、殆、ト、用、ヲ、ナ、サ、ル、^趣ニ、民間、ニ、教育、寮、集、積
ヲ、拒ム、モノ、アル、爲メ、經費、ヲ、足ラ、シ、甚、カ、困、難、ナ、リ、ト、云、フ
商會ノ、會長、ハ、余、朝、紳、ト、稱シ、翰林、出身、ト、由、ニ、其、年、數、五、十
余、ナル、ベ、ク、非常ノ、人、望、アリ、目下、商、團、長、及、ビ、城、自、治、會、々、長、ヲ
兼、任、ス、リ、此ノ、人、モ、亦、時代、遷、レ、人、合、シ、テ、唯、温、厚、無、爲、ト、以、テ、者
地、人、ニ、善、ク、事、ス、シ、居、ル、モ、有、爲、ノ、人、オ、ト、ハ、見、難、ク、受、テ、難、シ、余、ノ、革命
ノ、當時、本省、ニ、於、テ、天、租、稅、ヲ、免、除、シ、厘、金、ヲ、廢、止、シ、タ、ル、由、ナ、ル、ガ、多
地、ハ、如何、ニ、シ、テ、行政、ノ、經費、ヲ、得、ラ、ル、カ、ト、問、ヒ、タル、ニ、彼、ハ、塩、稅、ノ、關
稅、ト、以、テ、支、弁、シ、居、リ、ト、答、フ、余、ハ、再、ビ、塩、捐、ハ、國、稅、ニ、屬、ス、ル、事
又、關、稅、ハ、各、國、賠、償、ノ、抵、當、タル、モノ、ナ、レ、バ、地方、ニ、テ、使用、シ、得、ル、^難ト、云、フ
問、フ、彼、日、ク、温、州、ハ、地方、貧、困、ニ、シ、テ、貿易、又、盛、ニ、ス、ル、他、ニ、財、源
ナ、キ、ヲ、以、テ、一時、之、ヲ、流、用、ス、ル、ト、此、等、ノ、人、ハ、唯、地方、的、觀念、ノ、^ニ
ニ、シ、テ、其、口、家、ヲ、觀念、ナ、キ、モノ、如、シ、温、州、ノ、振、興、ハ、推、テ、知
ル、ベ、シ

民國ノ長ハ、官、謂、莫、字、文、起、自、リ、ナス、氏、ハ、嘗、テ、福州、ノ、知、府、ト、シ

今名りし人由テ日本人親交アリトテ氏ハ奉命會身ニテ福建
省候補道台ナリ氏ハ剛直ニテ談吐ノ間才幹アリ認ム留學
生間ニ非常ニ人望シレ一般ノ士人同ク野合ホテテ教遠セラ
レ居ル由ナリ氏ハ盛ニ日本ヲ稱揚シ日本ノ同情ヲ感謝シ少ク革
命ヲ成立セシヲ將來ノ發展ヲナサントスルニ日本ノ同情アル援助
ヲ仰ガカルヲ得ガカルト云ハリ向キニ温州ノ民食乏乏ルルヲ商
會ノ依託ヲ受テテ上海ニテ多量ニ米ヲ買入レ六千石移ス余
ト同航ニテ帰温ノ後日々原僑ヲ以テ貧民ニ養下ケ多クナリ
右諸氏ノ外目下城内ニ於ケル名望ニ紳士ハ會黨ノ會董等位
ニシテ其他ニ革命命事多ク鼓吹モ八日在留學シタル生
等ノ派ニ過ギテ而シテ現ニ城内ニ留ル者八十數人ニ過カズシテ多
ク帰郷者ナリト云フ留學生ハ皆若輩ニテ學識經驗ニ於テ
共ニ同然スルト云ナキアラカシ極シテ温健ノ思想ヲ有スル
新智識ヲ有スルニテ一船ニテ少ク尊敬ヲ拂ハレ居ル所ナリ
從テ温州ニ於ケル村日本人感情ハ既ニ融和ニ見ラ覺ユ

清國事變特報 第三回

三月二十日

特別派遣員報告 三月十日 於南京

宋教仁南京ニ归来し十日夜、如キハ黃興ニ是ヲ共陸軍
 部長ニ就職セシメント大議論ヲ為シタリト云フ又ク死ヲ以テ黃
 陸軍部長ヲ違ハルトカ云ヒ居ルト、事ニテ、東ニ買収セラレタル
 ナリト居タルニ上海ニ聞ク所ニ宋ハ少シ失望シ来ルト元ハ
 袁、非常ニ大人物ト思ヒ行キシガ會見シテ想像ヲ過クハ
 出ツト内閣ニハ入ルベシ或ハ入ルガ方好キヤナト日本人言ヒト語リ
 譚人鳳ニ上海ニ諸方ニ勢力ハ凡如キモ世界ノ大勢明ナラ
 ガルノ過激家ヲ何カノ兵ヲ以テ滿洲行クカ孫ヤ黃ニ肘ヲ變ナキ
 ナル等何モ實施シ難キ事ト爲シ居ル由リ袁等暗殺ヲ計畫スル
 詭南京ニテ聞クモ果シテ如何ナルヤ此等モ實行ノ方ニ敢テ思ハ
 昨日滿曹武候祠ニ行キ見ルニ兵士ノ屯所トナリ居リ實ニ荒果
 ナリ居ル先日行キし時ハ夫々保存シ有ルモ今兵士来リ實ニ奮ク
 有様ナリ若臣義ヲ廢シ其和ナリタル支那ハ斯クモ人倫ヲ
 輕視ス所ヲ武候祠ニ願曹公祠等ヲモ尊崇セガレニ至リ
 タルナラシ手段々支那學者連、反對起ルノアルベシト豫
 想セラル

特別派遣員報告 三月十日 於廣東

在廣東方面政府間陰險複雜内訌、情形ノ揭ラテ各者現
 未内訌騒擾ヲ揣摩スルノ先照ニ供ス
 一 民軍動搖原因
 一 都督部内部ニ於テハ波瀾
 一 民軍ノ專横
 一 民軍自身ノ自營運動
 右三條ヲ以テ關係、近因トシテ以テ稜當ナラシト信ス

都督府ニ於テ内証 當地新政府ハ凡テ同盟會員ヲ組織スル

而シテ其ノ會員タルヤ財政部長李煜堂外交部長陳少白ヲ中心ト

ル廣義ナル家族的會員ニシテ異分ハ絶対ニ排斥セラレツアマリ

前總督長鳴岐前次師提督李準ノ都督ヲラントスル野心ハ香

港ヲ中心トスル此強大ナル勢力ヲ壓迫シテ失敗ニ終ル余義ナキ至

ラレメ遂方其都督トシテ胡漢民 撰舉セラレタリ

李併氏ハ老實ナル教育的ノ人物ニシテ軍政時代ニ於テ八方ニ當リ

縦横ニ手腕ヲ振ラズ政治的ニラズ只老練ナル陳少白ニ利用セ

ラレ軍ニ其德備トシテ虚位ヲ據ルニ過キバ 然レモ從來軍隊ニ對

シ密接ニ關係ナカリシモ彼等ハ己ガ黨トシテ真正ニ好意ヲ有スル

軍隊ハ數ツルニ足ラズ革命ノ大勢ニ據セラレ 新政府ヲ組織スルニ

至リタルニ過キバ 茲ニ於テ組織ハ直ニ新政府ノ施スベキ方策トシテ

一、財政ノ調理

ニ、民軍ノ整理

三、對他黨策

研究セシガハ然カモ民軍中廣東ノ革命ハ一自家ノ努力ヲ

リトナレ先約ナル自己ノ優待策ヲ請フテ止ム 胡漢民、新政府

トシテハ一ハ言責上ニ實力上ニ之ヲ肯セザルバカクハ慘況ニ墮リ更ニ至

テハ新政府ノ實力ヲ熟知セル自己ノ兵力ヲ以テ惠州ヲ陥レテ陳

炯明及び三營、新軍ヲ以テ花縣ニ駐營セル其主龍ハ時々クカ

一ターラ強行セシレ時局益々危態ニ陥ルヤ孫逸仙ノ未香ヲ機

トレ陳少白ノ建築ヲ以テ胡漢民、孫少白ト同道北行シテ臨時都

督陳炯明ヲ以テ代理セルニ至レリ

蓋シ陳少白ノ勢力カアルハ強クハ惠軍ヲ有レ惠州州ヲ陥レル功

績アレバナリ故ニ陳少白ノ軍勢ヲ率テ南京方面ニ活動セシマ

ルヤ其凱旋所ノ地カク豫州ニテ 猛虎ヲ野ニ放ツトナレテ

段ヲ弄セカレテ引止策ヲ講ジ延引ヲ延引シ重不遂ニ今日ノ

事局は至りにて已に北伐の必要なきに至り

陳氏已に北伐機を逸するや更に兵力を控制せざるべからず又廣東今日の急問題ハ民軍の分策を以て此方策を以て決り廣東の地位ハ安全にシテ施政を安んずり又陳氏の待て要する陳氏の其就仕る限定を以て其期を以て之ヲ實施せざるべからざるなり

一 民軍の一部ヲ新軍ニ編成

北極方面に駐留せし廣東提督龍濟光ヲ招致し黃河

及西河一帯に警備を充てしむ

遂に民軍の解散ヲ勵行せり

民軍自身ノ自警策 無為にして一月拾えし得つた民軍

兵士下東散盡教を以て懐中温マツル其頭目ハ霹靂一

聲自家運命限定せし 新軍ノ兵士カ田舎ニ歸ル

エ夫トナルカノ三策外ニ警備を以て抗セント志相當ノ實力ヲ

ラカシメカラス 於是乎惠軍ヲ中心トシテ石泉揚方丈王和順ノ注

ニシテ武裝ヲ注シテ己ニ落キセシムルヤ新政府ノ抗議ニ逢ヒ主

謀者石白ノ愕北より一時ヲ過シテモ更ニ西河一帯返す命也

之ニ及ビ最後ノ決りナリハ躬臨却リテ猫ヲ噬ム悲劇ト

ナリ 龍濟光ノ桂軍約二千名一

營約百三十名ト計ニ新軍約五千巡防隊若干ニテ組織

セラレタル 龍濟光ノ補給豐富カニ新勢力ニ敵スベクモアラズ

解散(龍)返す余儀ヲモシレ其餘燼ハ例ノ個人暗殺ニ

ヨリテ報ルルベキカ

是より陳都督ノ執力ハ一日ト薄弱トナリツルハ敵ヲ

バカラサル事實ニシテ最後ノ悲劇ハハ時間ノ経過ニ由ル外

ナシ

清國事変持報 三月二十日

特別派遣員報告 三月十五日 於南京

宋教仁南京ニ归来し十日夜ノ如キハ黃興ヲ是ヲ夫陸軍
部長ニ就職セシメント大議論ヲ為シタリト云フ又ク死ヲ以テ黃
陸軍部長ヲ連ルルトカ云ヒ居ルト事ニテ亦黄ニ買収セラレタル
ヲ突ヒ居タルニ上海ニテ聞ク所ニ宋ハ少し失望シ来ルト元ハ
袁ノ時常ノ大人物ト思ヒ行キシガ會見シテ想像ヲ過クシト
云フト内閣ニハ入ルベキ或ハ入ラガ方好キヤナト日本人言ヒト語リ
譚人鳳ハ上海ニテ諸方ニ勢力ハ及ビ如キモ世界大勢明ナラ
ガレノ過激家ニテ何万ノ兵ヲ以テ滿洲行クトカ孫ヤ黃ニ腑甲斐ナ
ク怒ル等何モ實施シ難キ事ト爲シ居ル由リ袁等暗殺ノ計出ス様
ノ説南京ニテ聞クモ果シテ如何ナルヤ此等モ實行ノ方ニ救ヒテ患
昨日清舊武侯祠ニ行キ見ルニ兵士ノ屯所トナリ居リ突ニ荒果
テ居ル先日行キし時ハ夫々保存シ有ルモ今兵士来リ突ニ驚ク
有様ナリ君臣ノ義ヲ廢シ共知ナリタル支那ハ斯クモ人倫ヲ
輕視ス所ヲ武侯祠ヲ廢棄公祠等ヲモ尊崇セガレニ至
タルナラン平政ヲ支那學者連ノ反對起ルルアルベシト豫
想セシ

特別派遣員報告 三月十日 於廣東

左ニ廣東方面政府間陰謀復雜内訌ノ情形ヲ掲グ各者現
未内訌騒擾ヲ掃摩スルノ急照ニ供ス

民軍動搖原因

一 都督部内部ニ於テハ波瀾

二 民軍ノ專横

三 民軍自身ノ自營運動

右三條ヲ以テ劇變ノ近因トスルヲ以テ機密ナラント信ス

都督部ニ於ケル内証 當地新政府ハ凡テ同盟會員ヲ組織シ
 而シテ其ノ會員タルヤ財政部長李煜堂外交部長陳少白ヲ中心
 ル廣義ナル家模的會員ニシテ異分ニ絶対ニ排斥セラレシマ
 前總督長唱岐前以解提督等ヲ准ノ都督ヲラントスル野心ハ本
 港ヲ中心トスル此強大ナル勢力ヲ壓迫シテ失敗ニ終ル余義ナキ事
 ラレシメ遂方其都督トシテ胡漢民ヲ擁護セラレタリ
 李煜堂ハ老實ナル教育的ノ人物ニシテ軍政時代ニ於テハ方ニ當
 縦横ニ手腕ヲ振テズル政治家ニテラズ只老檢ナル陳少白ニ利用
 ラレシメ其僥倖トシテ虚位ヲ擁ヒシ過キ大 然ラモ從來軍隊ニ
 シ密接ニ關係ナリシ之傍等ハ己ガ黨トシテ真正ニ好意ヲ有ス
 軍隊ハ數フルニ足ラズ革命ノ大勢ヲ擁ヒシレ新政府ヲ組織スル
 事ヲタルニ過キズ 茲ニ於テ組織自道トシ新政府ノ施スベキ方策ニシテ
 一 財政ノ調理
 ニ 民軍ノ整理
 三 對他黨策ヲ
 研究セラレシガニ至リ然カモ民軍ト廣東ノ革命ハ一自家ノ努力ヲ
 リトナシ先約ナル自己ノ優待策ヲ請ヒテ止ス 胡漢民、新政府
 トシテハ一ハ言責上ニ實力上ニ之ヲ肯セサルベカラル慘況ニ隔リ更ニ方
 テハ新政府ノ実力ヲ熟知セル自己ノ兵力ヲ以テ惠州ヲ陥レテ陳
 炯明及ビ三營ノ新軍ヲ以テ花縣ニ經營スル黃士龍ハ時々「クダ
 一ター」ヲ強行セシレ時局益々危態ニ陥ルヤ孫逸仙ノ未嘗ヲ機
 トレ陳少白、建築ニシテ明漢民、孫少白、同道北行シテ臨時都
 督陳炯明ニシテ代理セラルニ至レリ
 甚シク陳少白ノ勢力アルハ強ナル患軍ヲ有レ惠州ヲ陥レタル功
 績アレバナリ故ニ陳少白ノ軍勢ヲ率テ南京方面ニ活動セシ
 スルヤ其凱旋所ノ此カヲ豫測シテ猛虎ヲ野ニ放ツトナレテ
 段ヲ弄セカレテ引止策ヲ講シ延引ヲ延引シ重木遂ニ今日ノ

事局ニ立至リテ已ニ北側ノ必要ナキニ至リ

陳氏ノ已ニ北伐機ヲ逸スルヲ使ニ自ノ兵カヲ控制セザルバカラス又廣東ノ地位ノ安全ニシテ施政容易トナリ又陝西ニ待テ要アリ陳氏ノ其就ハシ限定セシテ其期ニ之ヲ実施セザルバカラス道リ

一 民軍ノ一部ヲ新軍ニ編成シ

北極方面ニ駐留セシ元廣東提督龍濟光ヲ招聘シ黃

及西側一帯ノ警備ニ充テシ

遂ニ民軍ノ解散ヲ勵行行セリ

民軍自身ノ自覺策 無為ニシテ一月拾元ヲ借ツテ民軍

兵士ト實數虛數ノ差ニ依テ懷中ヲ温メツテ其頭目ハ霹靂一

聲自家運命限定セシ 新軍ノ兵士カ 田舎ニ帰ル

工夫トナルカノ三策外ニ齊集シ余地ナク及抗セントス相嘗ノ實カカ

ラザルバカラテ於是乎新軍ヲ中心トセシ石 泉揚方決王和順ノ徒

ニテハ新軍ノ注シテ已ニ落キセシルヤ新政府ノ抗議ニ逢ヒ主

謀者石白ノ慘死トテ一時ヲ爲シテモ更ニ西軍ヲ返シ命

之ニ及ビ長所ノ決心トナリ内躬臨却リテ猶ヲ嚙ム悲劇ト

ナリ結果ハ豫則ノ能ハストモ 龍濟光ノ桂軍約二千名一

營約百ニシテ新軍約五千巡防隊若干ニテ組織

セラルタル 總編ニ補充豐カナル 新勢力ニ敵スバクモアラス

解散(國)ノ返シ余儀ヲセシレ其餘殘ハ例ノ個人暗殺ニ

テテ報ハルレカ

是ニ自陳都督ノ執力ハ日一日ト薄弱トナリツテアルハ敵ヲ

ハカラサル事實ニシテ最所ノ悲劇ハハ持同ノ経過ニヨリト

ナリ

特別派遣員報告

三月二十日

駐南京

黃興の此迄の革命軍中ニ於テ陸軍將校連合会ヲ組織スル計畫ニ由
又々昨日聞ク所ニ據ルニ孫君ハ野ニ下リ全口ニ遊説シテ共和思想ヲ吹鼓
スルノ決心ナリト云フ

此等ノ或ハ眞正ナル信ヲ表セ且シ全ク政權ヲ讓ルモ後未ダ行動ヲ奉
制スルノ必要ナラズ未ルベシ南ニ於テ孫君ハ黃ニ助カレ北方ニ袁ニ愚弄
カレタル日本人ハ大ニ驚愕セラルベカラスト思フ

其二

三月二十七日

於南京

陸軍將校連合会ハ昨日三月廿六日大会ヲ三牌樓某所ニ催シタル如キ其ノ
議決等詳細未ク聞カズ又海軍ニ於テモ日本ノ水交社ノ如キモノヲ
組織シツアル也ナリ

近來陸軍ノ練兵ハ中々出精ニ居ル様ナリ喇叭ノ如キハ朝暗キ時ヨ
リ諸方ニ吹奏ヲ始ム(但シ舊古ルベシ)此礼ハ能ク行ハルモ間々正
直ニスモノアリ

將校等ハ金光多ク衣服ヲ着テ居リ馬鹿氣ヲ本氣沙汰ニ思ハルモ
兵士ハ昨今向未支那平服及靴(時ニ草履ヲ見ル)ヲ練兵ヲ爲シ居ル
アリ是財政上ノ都合ナルベキ也却テ革命トシテノ趣アリ將校ハ金光ノ帽
服兵士ハ靴洋服(軍服)脱弱ノ洋靴ナトヲ穿テ練兵モナリヨリシ
從前ノ革命軍兵士ヨリハ大ニ見エケル也アリト思フ是レ袁ノ近日
來ル故幾分カ兵士ヲモ精練ラシク爲シ置ク必要ニ感ジタルモカ

其三

三月二十九日

於南京

漢治萍ノ借款ノ議ハ孫君參議院ニ送シ未リシ赴但シ參議院
テハ反對者多キ模様ニテ承諾ヲ與ハルベシト 昨今ハ何事モ馬
鹿ラシク成リ且ツ大局ハ先ツ決定シタル如シ袁ハ一度ハ南下スベ
ト觀察シ居ルモ上海ノ報ニ北京ヨリハ袁必ズ南下セザルベシト報
ジ未ル南京ニテハ南下スベシト云ヒ居ルモ又孫君等ノ欺ク所トナリ居
ルニアラズヤト云ヒ未ルコトアリ此ニ於テ又欺カルヤ否ハ判シ難キ
尚一度ハ南京ニ未ルコトヲ信シ居ルナリ
甘肅新疆ノ升姚長庚ハ終リ如何ニナスベキヤ只此ノミニテモ
奮闘シテ袁ニ反抗スルコトヲ望ミ居ルモ或ハ終ニ誘導セシ降

参スル事ナキヤ新聞モアル如ク敵棋瑞ノ黎元洪ニ協議ス所
 ニ依レバ「升允長庚不足慮可慮者回民耳。戦端一開新疆
 萬里兵運禍結恐無已時」云々ト依テ遊説者ヲ遣シ「平和ニ
 局ヲ繕ハント勸誘スルモノアリ此ニ據テモ漢人等が回教徒ノ
 勇敢剛強尤ラ畏憚スルノ情ヲ見ルベシ」
 南京六日本人昨今ハ四百余名アル赴料理屋ニ軒出来旅店モ
 明日ヲ一ニ軒ト尤由気候好ク又暖和トナル